

三協・立山ホールディングスグループ  
CSR報告書 2012

Sankyo-Tateyama Holdings Group  
Corporate Social Responsibility Report



# CSR報告書2012

## Contents

三協・立山ホールディングス概要	2
ごあいさつ	3
経営理念と行動指針	4
<b>【特集I】長期VISION-2020</b>	5～8
<b>商品における取り組み</b>	
マーケットインの基本姿勢	9
環境・UDIに配慮したマーケットイン	10～16
<b>CSR活動の推進</b>	
CSR活動の推進	17
コーポレートガバナンス	18
コンプライアンスの推進	19
情報セキュリティの確保	20
<b>【特集II】大地震への対応</b>	21～22
<b>社会性報告</b>	
地域社会とともに	23～25
株主とともに/取引先様とともに	26
お客様とともに	27～28
従業員とともに	29～30
<b>環境への取り組み</b>	
環境基本理念と環境とのかかわり	31
環境行動目標と実績	32
地球温暖化対策	33～34
廃棄物対策と省梱包	35
化学物質対策	36
法規制遵守	37
環境マネジメントシステム	38
環境測定結果	39～40
環境会計	41
主要指標一覧	42
環境保全活動の歩みとグループのこの一年	43
<b>第三者意見</b>	44

## 【CSR報告書2012】の発行にあたって

三協・立山ホールディングスグループでは、ステークホルダーの皆様への適切な情報開示を重要と考えています。

2001年に「環境報告書」として環境保全活動に関する情報開示をスタートしました。2005年からは「社会・環境報告書」として社会性に関する取り組みについても報告してきました。そして2007年からは、より自主的に社会的責任を果たしていく姿勢を明示し、タイトルを「CSR報告書」と改め、現在に至っています。

本報告書では、環境とユニバーサルデザインに配慮した商品をご紹介します「商品における取り組み」、経営の基盤となる「CSR活動の推進」、社会に対してのさまざまな取り組みをご紹介します「社会性報告」、環境保全活動の進捗やパフォーマンスをお伝えする「環境への取り組み」の4つを本編の柱として構成しています。

なお、読みやすさへの配慮のためユニバーサルデザインフォントを使用しています。

### ● 対象期間

2011年4月1日から2012年3月31日

活動内容については、一部2010年度以前のもの、および2012年度のものも含まれます。

### ● 対象範囲

- 三協・立山ホールディングス
- 三協立山\*
- 三協アルミ社[旧三協立山アルミ]:  
新湊工場、佐加野工場、福光工場、氷見工場、福岡工場、福野工場、射水工場
- 三協マテリアル社[旧三協マテリアル]:  
高岡工場、石川工場、新湊東工場、奈呉工場
- タテヤマアドバンス社[旧タテヤマアドバンス]:  
横浜工場
- 関連会社:  
ST物流サービス、協立アルミ、三協化成、三協工機、サンクリエイト、三精工業、STメタルズ[旧タテヤマメタックス]\*

※三協立山アルミ、三協マテリアル、タテヤマアドバンスは合併し2012年6月1日より三協立山株式会社となりました。

※タテヤマメタックスは他3社と合併し2011年9月1日よりSTメタルズ株式会社となりました。

### ● 参考にしたガイドライン

- ・環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- ・環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」
- ・GRI「サステナビリティ・レポートガイドライン2006」

※GRI(Global Reporting Initiative :企業のサステナビリティ報告に関する国際的なガイドラインの作成とその普及を目的に1997年に設立された国際機関)

## ツインリーフはコミュニケーションシンボル

私たちは、このマークを介して、お客様、お得意様、株主様、投資家はもちろん、地域の方々や社員との良好なコミュニケーションを築けるように願っています。ツインリーフは、「社会と私たち」「お客様と私たち」「環境と私たち」……など社会との関係において心と心をつなぐシンボルです。



Sankyo-Tateyama Holdings Group

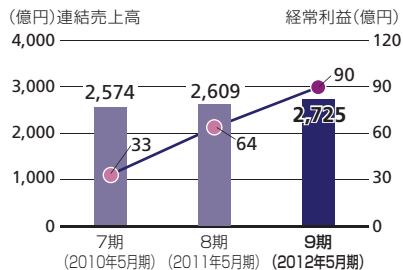


● **三協・立山ホールディングス概要** (2012年5月31日現在)

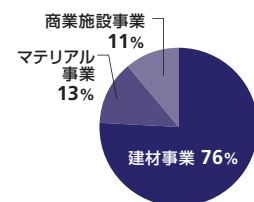
会社名 三協・立山ホールディングス株式会社  
 (英文名称 Sankyo-Tateyama Holdings, Inc.)  
 設立年月日 2003年12月1日  
 事業内容 持株会社  
 三協・立山ホールディングスグループ(アルミニウム製住宅用・ビル用建材、マテリアル商品、商業施設等の開発・製造・加工・販売を行う子会社およびグループ会社)の経営管理および関連する事業の運営。  
 所在地 富山県高岡市早川70番地  
 代表者 代表取締役会長 川村 人志  
 代表取締役社長 藤木 正和  
 URL <http://www.sthdg.co.jp/>  
 資本金 150億円

従業員数 166名  
 連結従業員数 8,827名  
 連結売上高 2,725億54百万円  
 経常利益 90億37百万円  
 総資産 2,128億62百万円

● **連結売上高および経常利益**



● **事業別売上げ構成比** (2012年5月期)

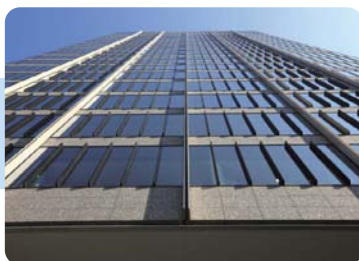


● **三協・立山ホールディングスグループ事業概要**

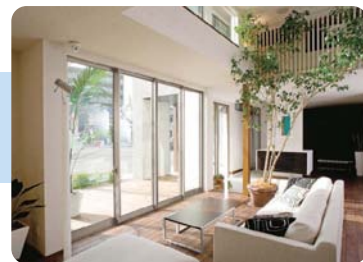
三協・立山ホールディングス株式会社

**三協アルミ社<建材事業>**

● **ビル建材**  
 サッシ・ドア、カーテンウォール、改装、フロント、手すり、内外装建材、環境商品、その他



● **住宅建材**  
 玄関ドア、窓、防犯配慮商品、インテリア建材、窓まわり商品、その他

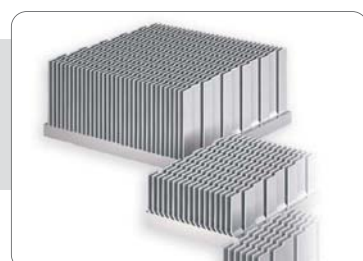
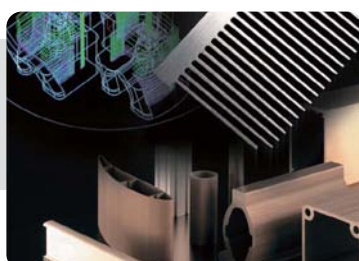


● **エクステリア建材**  
 門扉、フェンス、カーポート、テラス、サンルーム、サイクルポート、通路シェルター、その他



**三協マテリアル社<マテリアル事業>**

● **アルミニウム、マグネシウムの鋳造・押出・加工**  
 押出加工品採用実績:電気機器、輸送機器、産業機械、OA機器、土木・仮設資材、家具、福祉機材、その他  
 鋳造:アルミニウム合金ビレット、マグネシウム合金ビレット



**タテヤマアドバンス社<商業施設事業>**

● **商業施設**  
 汎用・専用什器、カウンター、ディスプレイ什器、その他

● **サイン**  
 スタンドサイン、ファサードサイン、突出しサイン、大型サイン、壁面・吊下げサイン、掲示板、屋内外サイン

● **店舗メンテナンス**  
 店舗メンテナンス、店舗リニューアル



## 新しい価値の創造を

昨年の東日本大震災以降、社会の価値観は大きく変わりつつあります。当グループは環境負荷の少ない暮らしの実現にむけて、さまざまな人々や地域社会と価値を共有することで、ともに発展していくことを目指しており、省エネや節電に貢献できる環境技術・製品の提供を通じて、人々が安心して豊かな暮らしを実現できる、常に新しい価値を創造してまいります。

## 長期ビジョンの達成に向けて

これまで当社(三協・立山ホールディングス)は、三協立山アルミ、三協マテリアル、タテヤマアドバンスの3事業会社によるグループ体制により、各々の事業領域に個別の事業戦略を展開することで一定の成果をあげてきました。しかし今後予測される、国内人口の減少や経済のグローバル化加速に加え、東日本大震災を契機に高まった環境・エネルギーや安心・安全への社会的要請など、これまでとは異なる大きな変化に対応していくことが求められます。このような時代の変化を見据え、当グループとして、2011年7月に「長期VISION-2020」【Life with Green Technology ～環境技術でひらく、豊かな暮らし～】を掲げ、次代への指針を明示いたしました。その達成にむけて、2012年6月1日、3事業会社が合併し、「三協立山株式会社」となりました。

今回の合併は、各事業会社が持つそれぞれの優位性や戦略の独自性を維持しつつも、グループ全体の力を結集して長期ビジョンの達成を目指すものであり、海外への事業展開や環境技術をドライバーとした事業領域の拡充にむけて現有の経営資源の流動性を高めて機動的な対応を図るとともに、経営の合理化・効率化を強化していくものです。(2012年12月1日に三協・立山ホールディングス株式会社は三協立山株式会社を存続会社として合併予定)

## しなやかな会社

2015年からの世帯数減少、消費増税に伴う駆け込み需要、反動減など当社事業を取り巻く市場環境は、近い将来大きく変化することが予想されております。短期間で需要増から需要減へ推移する市場ニーズの対応には、環境変化に柔軟な対応ができる「しなやかな会社」への変革が必要となります。そのためには、目標にむけた課題を社員一人ひとりが共有し、行動する企業風土になること、そして会社の基本でもある「お客様から信用・信頼される会社」になることが大切と考えています。

私たちは一昨年の三協立山アルミの50周年を機に「創業の原点に戻る」と宣言しました。お得意先、地域社会、社員の三者が協力し共栄するという協業の精神で取り組むとともに、お客様に喜びと満足を提供する企業活動を展開することで、お客様から信用される会社を築いていきたいと思っております。

2012年8月



三協・立山ホールディングス株式会社  
代表取締役会長

川村 人志



三協・立山ホールディングス株式会社  
代表取締役社長

藤本 正和



# 経営理念と行動指針

三協・立山ホールディングスグループでは、経営理念および行動指針を策定しています。これらは私たちグループ構成員が、価値観、判断基準、行動基準を共有し、グループ経営理念の実現を目指していくための意識、行動の指針となっています。

## 経営理念

お客様先・地域社会・社員の協業のもと、新しい価値を創造し、お客様への喜びと満足の提供を通じて、豊かな暮らしの実現に貢献します。

私たちは

## 行動指針

### —お客様満足—

- 1 常にお客様の視点に立ち、誠実に対応することで、信頼される存在であり続けます。

### —価値創造—

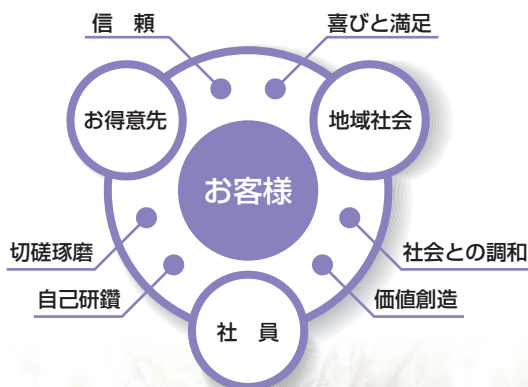
- 2 技術と知識の向上に努め、新たな製品の開発とサービスの提供にたゆまず挑戦し続けます。

### —社会との調和—

- 3 環境、地域社会、人との調和を考えて行動し、人と自然にやさしい企業であり続けます。

### —自己研鑽—

- 4 自己研鑽に励み、互いに切磋琢磨し、働き甲斐のある企業風土を育みます。



## 私たちが大切にしているもの

### CSポリシー

- お客様満足を第一とし、“常にお客様の立場・視点で考え行動”しよう。
- お客様の意見に耳を傾け、“期待や問題点をしっかりと把握”しよう。
- お客様の満足実現に向け、“創意・工夫で改善、提案”しよう。
- お客様の“満足こそが仕事の成果”であると心がけよう。
- お客様の満足を、“共にわかち合えることに感謝”しよう。

私たちは常にこの指針に従い、日常の企業活動の中でお客様満足の向上に努めていきます。

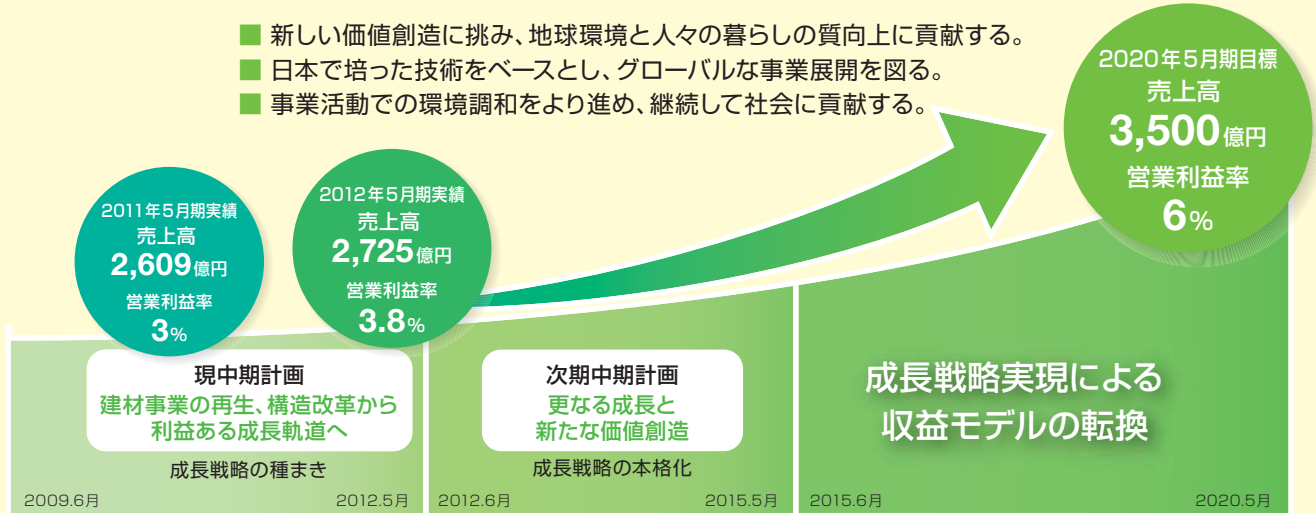
※CSポリシーは、経営理念、行動指針とともに携帯用カードとして当グループ内に勤務する役員・社員・派遣社員など全員に配布され、個々人の指針としています。

国内市場の縮小やアジアを中心とした新興国経済の伸張、環境意識の高まりなど変化する事業環境をチャンスと捉え、2020年までに当社グループがダイナミックに挑戦する大きな目標として、『長期VISION-2020』を策定しました。強みを活かし、新たな資源を獲得することで長期的な事業成長を図ります。

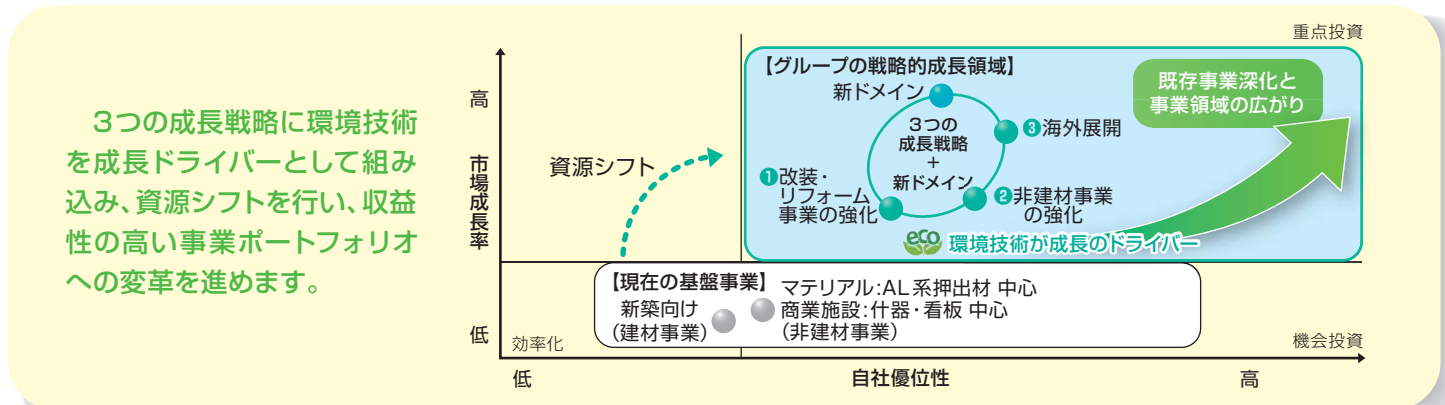
## 2020年 目指す姿 Life with Green Technology

『環境技術でひらく、豊かな暮らし』を実現する企業グループへ

- 新しい価値創造に挑み、地球環境と人々の暮らしの質向上に貢献する。
- 日本で培った技術をベースとし、グローバルな事業展開を図る。
- 事業活動での環境調和をより進め、継続して社会に貢献する。



## 2020年にむけた成長戦略



## 成長戦略指標

成長戦略	2020年 戦略指標	事業コンセプト	
1 改装・リフォーム事業の強化	改装・リフォーム比率 ≫40%以上 ≫売上2倍に(2011年5月期比)	建材	顧客視点のサービス・技術力により、環境建材、改装・リフォーム分野で飛躍
2 非建材事業の強化	非建材事業比率* ≫40%以上 ≫売上2倍に(2011年5月期比)	マテリアル 商業施設	コアである合金・押出と加工技術を追求し、高付加価値Al・Mgで明日の産業を切りひらく 人間に快適な商業空間を創造するスペースクリエイターへ
3 海外展開	海外売上比率 ≫10%以上	国内で培った技術力・提案力を背景に海外事業を本格化、事業収益の一翼を担う	

\*三協立山主要3事業の売上比率

## 成長戦略 1 改装・リフォーム事業の強化…建材事業

建設総投資額の長期的な減少の中、国内建築ストックの有効活用、耐震性の確保、省エネ対応、快適性の向上などから需要増加が見込まれる改装・リフォーム分野の商材の拡充や、B to Cの販売チャネル拡大など体制を強化し、新設着工の減少に左右されにくい収益基盤の構築を図ります。

### 顧客視点のサービス・技術力により、環境建材、改装・リフォーム分野で飛躍

環境  
リフォームの  
市場浸透



改修サッシ



後付樹脂内窓「プラメイクE」

### 3 B to C販売網の充実

- '一新助家'店舗網拡大と総合リフォームショップ化
- 提携によるチャネル多様化



自然換気システム「NAV WINDOW21」



太陽熱利用ガス温水システム「SOLAMO」

### 2 B to Bの拡販体制確立

- STER事業の拡大  
STER(スター)事業: Sankyo Tateyama Eco & Remodeling  
環境・改装の提案から施工・メンテナンスまでトータルで提案・サポート



CW太陽光発電



太陽光発電仕様カーポート「ソーラスターII」

### 1 リフォーム・環境商材拡大

- 環境商品拡充/断熱・通風・輻射冷暖・遮熱・省&創エネ建材
- リフォーム専用商材拡充

## 成長戦略 2 非建材事業の強化…マテリアル事業

環境・エネルギー関連需要など今後も伸張が見込まれるアルミニウムやマグネシウムの形材およびビレットの事業領域拡大に向け、合金開発から鋳造・押出・表面処理・加工までの一貫した技術・生産体制での優位性を武器に、太陽光発電機器向けのアルミ部材や高性能ヒートシンク、高精度・高強度・軽量素材の開発を推進し、電気自動車や高速鉄道など輸送業界やIT機器業界、環境・エネルギー業界など成長市場での事業拡大を図ります。

### コアである合金・押出と加工技術を追求し、高付加価値Al・Mgで明日の産業を切りひらく

成長  
産業分野の  
顧客創造



Mg 鋳造向け  
小型連続鋳造  
ビレット製造技術

### 3 高度な品質保証体制構築

- グローバル市場に対応する品質保証体制



蓄電関連部材



ダイカストと押出材の  
接合技術

### 2 高付加価値の鋳造・加工・接合技術の開発

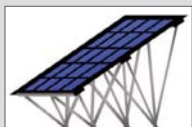
- 精密加工品・組立品事業の拡大



鋳造口アーム



LED用高反射率部材



メガソーラー用  
可動式軽量架台

### 1 合金・押出技術の追求

- 大型・高精度押出技術の開発 ⇒ 放熱などの環境需要獲得
- Al 高力合金、Mg 技術力向上 ⇒ 高強度・軽量化ニーズへの貢献



## 成長戦略 2 非建材事業の強化…商業施設事業

省エネを目的とした看板や什器のLED化やローコスト需要などに対応した商品開発に引き続き取り組み、国内市場での販売シェアの拡大と利益の安定確保を図ります。また、什器、看板、店内サイン、メンテナンスの各分野の総合力を発揮するとともに、店舗内装などの周辺事業の事業化を図り、商業空間提案の総合メーカーを目指します。

### 人間に快適な商業空間を創造するスペースクリエイターへ

商業空間提案の  
総合メーカーへ



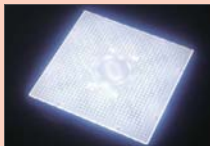
ユニバーサル  
フィッティングルーム



LED棚下照明100V

### 3 既存の周辺事業の獲得

- 店舗内装への本格展開



アドバンスライト SL-C



### 2 商品カテゴリー拡大

- 電子機器組込筐体、デジタルサイネージ組込什器などによる商材の拡大



店舗内装本格展開

### 1 商業施設・サインで更なる深耕

- 環境対応・ローコスト対応により未開拓小売業種顧客開拓
- 什器・看板・店内サイン・メンテナンスの総合力化によりコンビニ・大手小売チェーンでの高シェアの維持

## 成長戦略 3 海外展開

成長著しいアジア圏を中心とした新興国市場に対し、国内で培った技術力・提案力を強みに海外事業を推進します。建材事業・マテリアル事業では、現地法人との業務提携やM&Aによりアジア地域での事業展開を図り、商業施設事業では、中国(上海)の製造・販売拠点を強化し、海外での受注強化を目指します。

また、国内市場向けの商品の部材・部品の海外調達などの強化も併せて推進していきます。

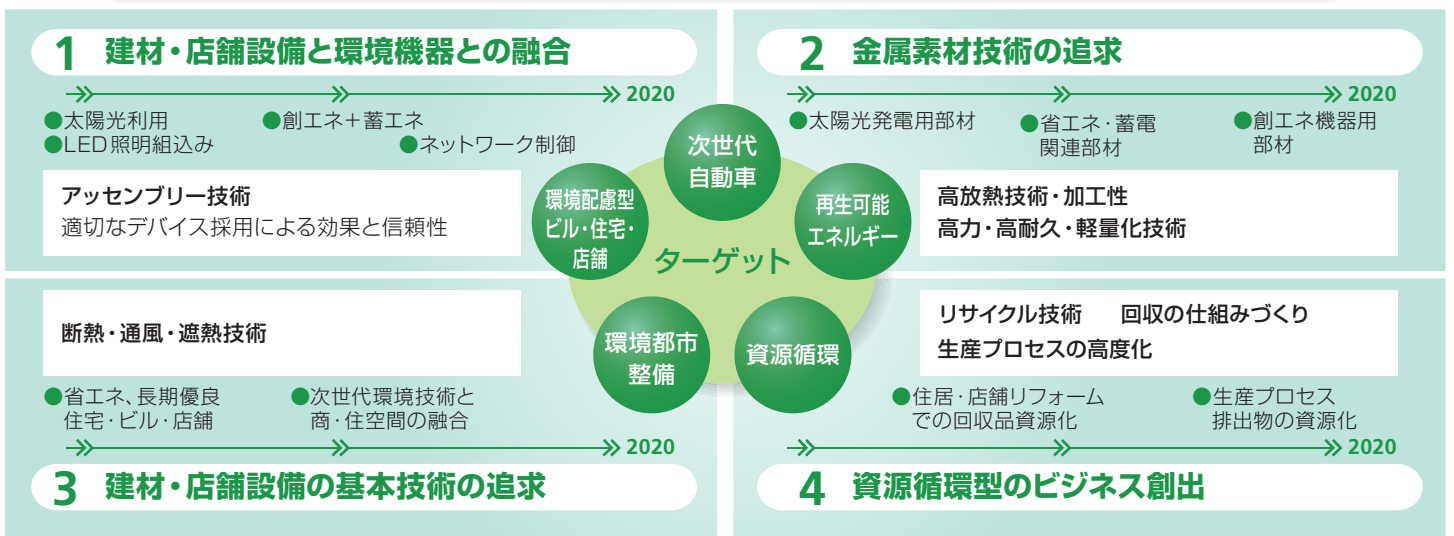
### 国内で培った技術力・提案力を背景に海外事業を本格化、事業収益の一翼を担う



成長戦略 環境技術への取り組み

エネルギー政策の転換と社会の変化に伴い、環境技術を新たな成長ドライバーと位置づけ、建材の断熱・通風技術の追求、建材・什器・看板と環境機器との融合化による省エネルギーの推進、金属素材技術の追求による新エネルギー分野の開拓など、新たな事業ドメインの創出に取り組みます。

環境技術を事業成長のドライバーに、『既存領域の深化』とエネルギー関連分野の開拓など『事業領域の広がり』に挑む

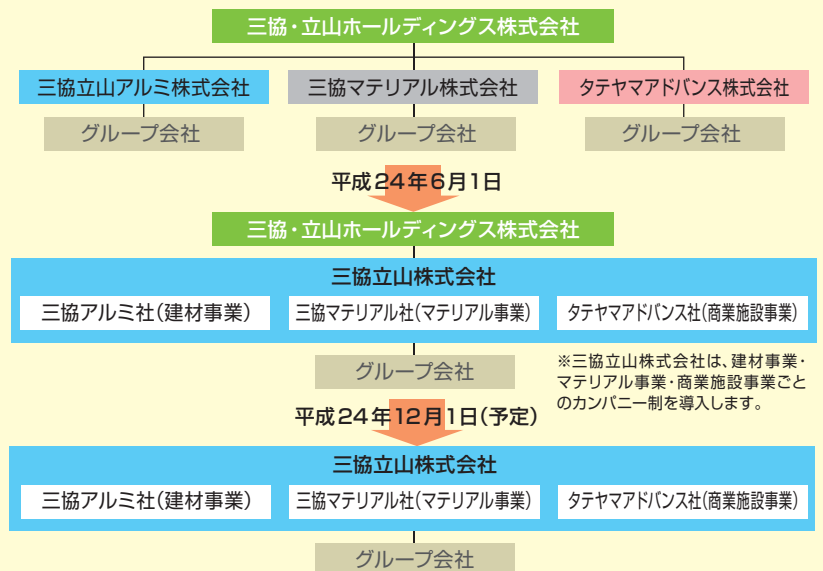


● 当社グループの合併について

平成24年6月1日、当社の完全子会社である三協立山アルミ株式会社と三協マテリアル株式会社およびタテヤマアドバンス株式会社が合併し、商号を「三協立山株式会社」としました。

さらに当社は、平成24年12月1日に三協立山株式会社と合併し、三協立山株式会社为上場企業として存続する予定です。

「長期VISION-2020」を実現するため、個々の事業推進力を活かしつつ、グループの総力を結集し、海外事業展開や事業領域の拡充を目指します。



● 中期経営計画(2013年5月期～2015年5月期)

基本方針 さらなる成長と新たな価値創造

基盤事業の収益力を強化するとともに、市場変化に対応し強みを活かした成長性の高い事業構成へシフトします。

戦略目標

- ① 改装・リフォーム事業の強化:競争力のある商品の積極的市場投入と販売体制の拡充
- ② 非建材事業の強化:技術・提案力で事業領域を拡大
- ③ 海外展開:長期的な成長を目指せる市場ボリュームの確保

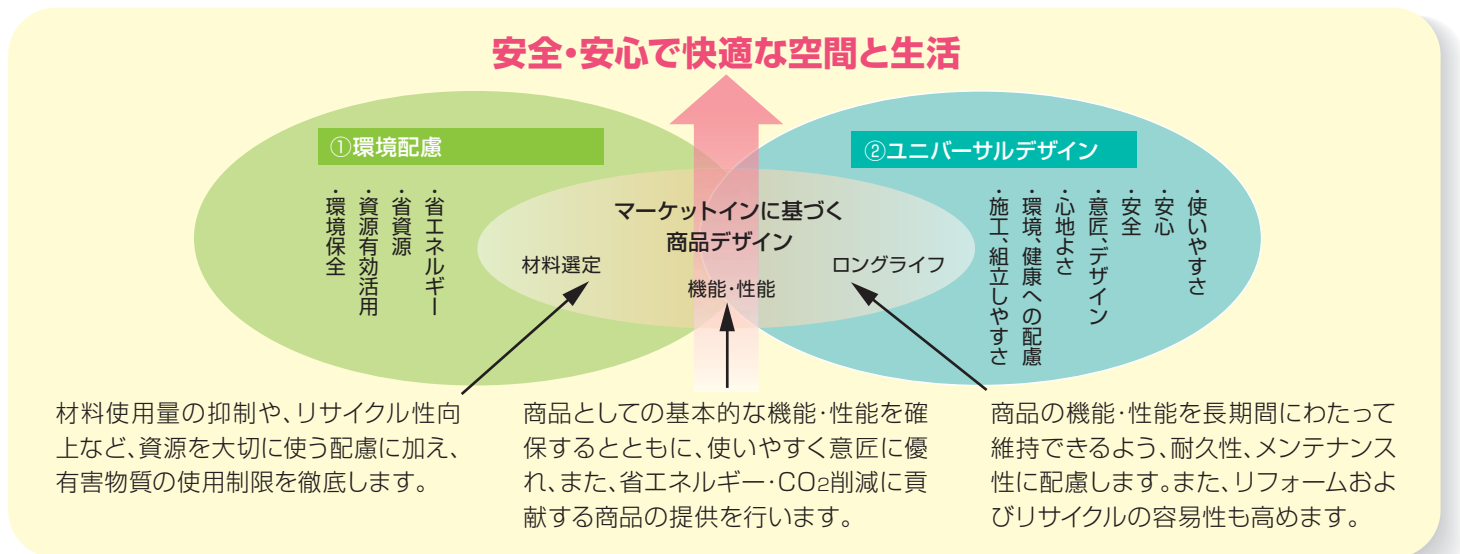
# マーケットインの基本姿勢

## マーケットインの基本姿勢

三協立山は、商品・サービスの購買者のニーズを優先し、マーケットインをベースとした全体最適システムから生活視点で商品開発を行い、お客様の期待にお応えします。

具体的には、全ての新規開発商品において、①環境配慮と②ユニバーサルデザイン(UD)を基本に、「材料選定」、「機能・性能」、「ロングライフ」の三つの要素を使う人の立場に配慮して盛り込み、お客様へご提案しています。

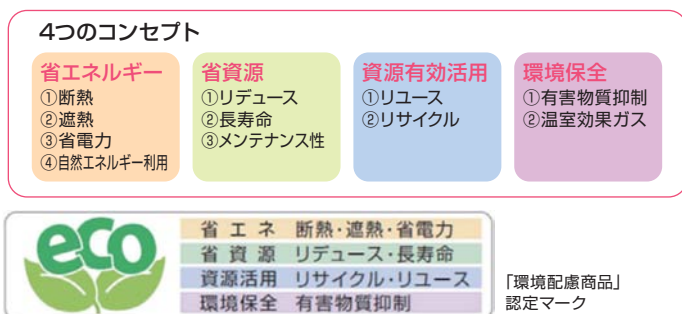
## 商品開発理念



## 環境配慮の商品づくりについて

### ● 環境配慮設計指針による商品開発

三協立山では「環境配慮設計指針」を基本として商品開発を行っています。この中では、「省エネルギー」「省資源」「資源有効活用」「環境保全」の4つのコンセプトに基づき、材料選定、生産、流通、施工、使用から解体・廃棄までのライフサイクルでの環境負荷低減に努めています。

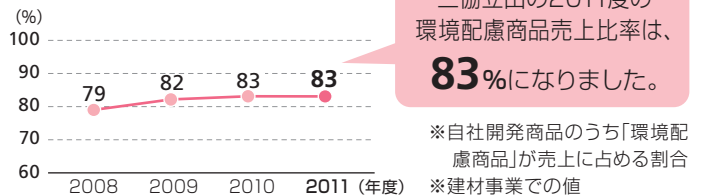


### ● 環境配慮商品売上が83%に

商品開発時には環境配慮設計指針に基づいた「環境配慮設計チェックリスト」を用いて、全ての開発商品について環境への影響を評価しています。

従来同等商品より環境への負荷が少なくなるよう目標を定め総合点数が目標を上回った商品を『環境配慮商品』と定めています。

### 環境配慮商品売上比率

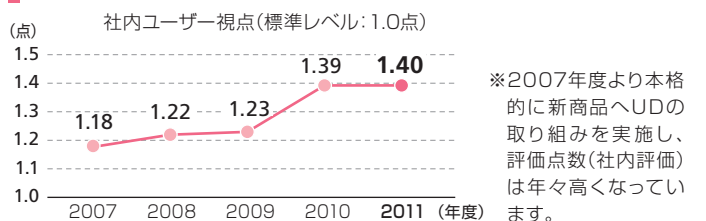


## ユニバーサルデザインの取り組み

### ● UDユーザー評価会

UDユーザー評価会とは、開発商品の試作確認時にユーザー視点での商品評価を行うものです。ユーザー側の声を商品開発へフィードバックすることで、書類審査や開発関係者による検討だけでは気が付かない問題点を掘り起こします。

### ユニバーサルデザイン評価点数(社内評価)



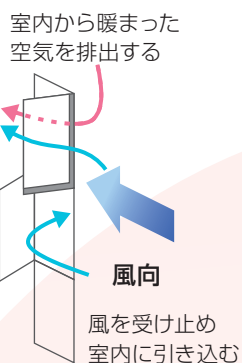


# 環境・UDに配慮したマーケットイン(1)

## 三協アルミ 環境配慮商品の例

### 採風段窓「ウインクロス」

開き勝手の違う窓を上下に配置し、ひとつの窓で効率よく給気と排気ができます。



### 目隠し可動ルーバー「エコ面格子Ⅱ」

目隠しから換気まで、角度を自由にコントロールできる、ブラインド感覚の後付けタイプ・ルーバー面格子です。



防犯

ルーバー角度 0°



目隠し

ルーバー角度 45°



日除け、通風・換気

ルーバー角度 90°

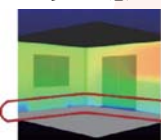


### 後付樹脂内窓「プラメイクE」

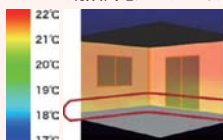
二重の窓で快適性が大幅アップ。冬は寒さを入れにくく、夏は涼しさを逃がしにくいので冷暖房コストの節減に貢献します。



今ある窓



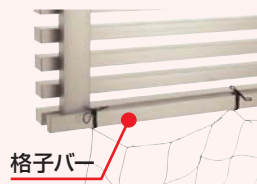
既設外窓+プラメイクE



天井から足元まであったかです。

### 「メイクグリーン」

「メイクグリーン」の軒天格子にガーデニングネットをつなぎ、つるをはわせれば、夏の日差しを和らげます。



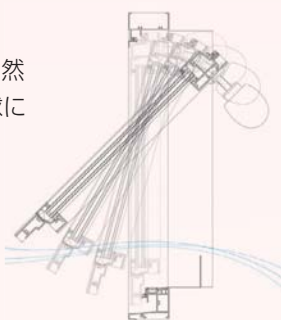
格子バー

グリーンカーテンが楽しめます。



### NAV「スウィンドウ」

「スウィンドウ」は風という自然エネルギーを利用して、人と地球にやさしい自然換気を実現します。



### オーニング「カフェリオ」

おしゃれに日差しをコントロールして暮らしを快適にします。



### 「M.フレイジ」緑化スクリーン

立体的なクランク状メッシュに植物をからませて壁面を緑化。緑で彩り、涼しい風の通る心地よい空間をつくります。



### 電気自動車対応プラグインスタンド 「電気ためちやいます」

電気自動車の充電をご自宅ですぐにできる一般家庭用プラグインスタンド。新たに機能を絞り込んでコンパクトにしたポールタイプEP型を追加しました。

ボックスタイプEB型



ポールタイプEP型



〈充電用コネクタ収納例〉



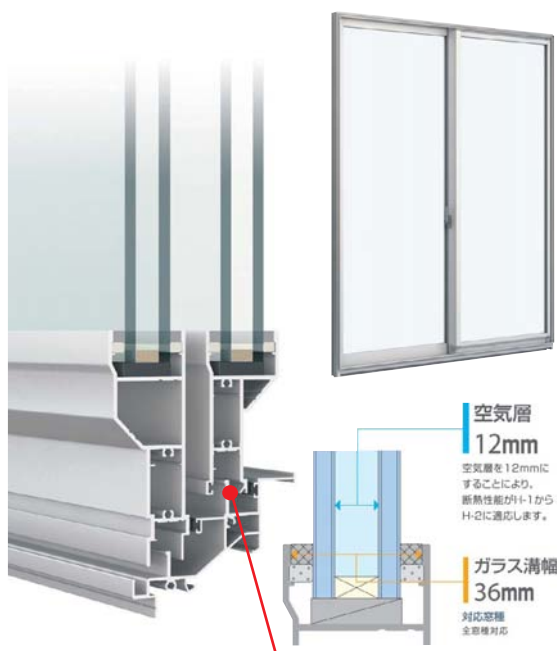
## 環境・UDに配慮したマーケットイン(2)

環境性と  
快適性を追求。

### 三協アルミ「MTG-70」ガラス溝幅36mmタイプ

日常生活においても温暖化防止をはじめとする地球環境への配慮は欠かせないものとなりました。しかし、安心や快適性を犠牲にする無理なエコは長続きしません。エコな生活を長く続けるためにも、人が快適に暮らすことができる住環境への配慮も大切にしなければなりません。

風に対する高い強度と暴風雨に対する水密性が要求されるビル用サッシの「MTG-70」シリーズにガラス溝幅36mmタイプがラインナップしました。これにより高性能複層ガラスとの組み合わせが可能となり、強度や水密性に加え断熱や遮音などの多様な性能要求に対応し、エコで快適な生活空間を創造します。



#### ● 高性能複層ガラスへの対応

##### 空気層12mmの複層ガラス



空気層6mmの複層ガラスに比べ、空気層12mmの複層ガラスは、断熱効果が14%向上します。

##### 防音合わせ複層ガラス



防音合わせ複層ガラスとの組み合わせにより、断熱性能に加え高い遮音性能を実現します。

#### Voice

高性能なガラスとの組み合わせで高い断熱、遮音性能を実現します。「MTG-70」のシンプルなデザインコンセプトを踏襲しつつ、使用時の安全性にも配慮した設計で、より地球にも人にも優しい商品となりました。



三協立山株式会社三協アルミ社 商品開発部商品開発一課 西田 健

### 三協アルミ 住宅防音工事適合サッシ「SH-RI・II」



防衛施設周辺の住宅防音工事に適合した高性能防音サッシです。従来商品をフルモデルチェンジし、本来の目的である安定した遮音性能はそのままに、安全性・意匠性・使い勝手に配慮し、さらには複層ガラスとの組み合わせにより断熱性を確保することで、より快適な室内環境を提案します。



RIタイプでは、空気層12mmの複層ガラスとの組み合わせにより、高い断熱性能を実現します。

#### Voice

騒音地域の方々に「静」の環境をお届けすることを心掛けて開発を進めました。従来品の構造を一新することで、高い遮音性能を確保しつつ軽いハンドル操作と軽快な障子開閉を実現しました。また、メンテナンス時の部品交換も容易にできますので、長期間にわたって快適性と安心を感じていただけます。



三協立山株式会社三協アルミ社 商品開発部商品開発一課 佐野 龍大

## 環境・UDに配慮したマーケットイン(3)

風と暮らそう。

### 三協アルミ 玄関ドア「ラフォース」新採風ドア

2010年度の家部門における二酸化炭素排出量は1010万トンと前年比6.3%増加しました。また、夏と冬の期間には原発停止に伴う節電要請が全国的になされています。

これからの住まいには、温暖化ガス削減と節電が無視できないものとなっていますが、暑さ寒さを我慢するだけの生活は長続きしないだけでなく、大切な家族から笑顔が消えてしまいます。

新採風玄関ドアは、冬は高い断熱性能を発揮し、夏は暑さ対策として自然風が利用できる、「冬は暖かく、夏は涼しい」商品です。快適な住まい環境の確保と無理なく行えるエコ活動を通して、家族が笑顔で暮らせる住まいづくりを提供します。

### 断熱性能を確保した快適&スタイリッシュな採風ドア

「快適」「防犯」「プライバシー」に配慮しながら「風」を取り込める賢いドア。



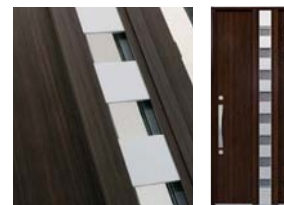
女性やお子様でも  
楽な開閉操作



スリムで  
スタイリッシュな  
デザイン



スリットタイプ



格子タイプ

#### ● 商品特徴

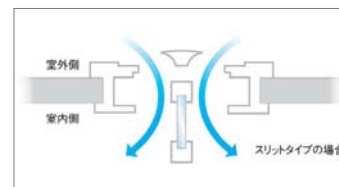
##### 断熱×採風

- ・断熱性能K3・K4を確保していますので、冷暖房費の節約や節電につながります。冬は、暖房の熱を逃がさず快適性を高めます。
- ・室内側の内開き窓の開閉によって、ドアを閉じたままでも通風、換気ができます。また、採風面積が従来品の約2倍となり、より多くの風を採り入れることができるようになりました。



##### 効率よく風をキャッチ

- ・スリットタイプは、前方向からだけでなく横から吹く風も効率よく室内に取り込める構造です。



#### Voice

この商品は採風タイプでありながら、高い断熱性能を確保し、快適性と環境性を両立しました。スリムな構造や防犯性、お手入れのしやすさなど、意匠性や使い勝手にも配慮しています。風をうまく利用した、エコで快適な暮らしを応援します。

三協立山株式会社三協アルミ社 商品開発部商品開発二課 吉留 大介





## 環境・UDに配慮したマーケットイン(4)

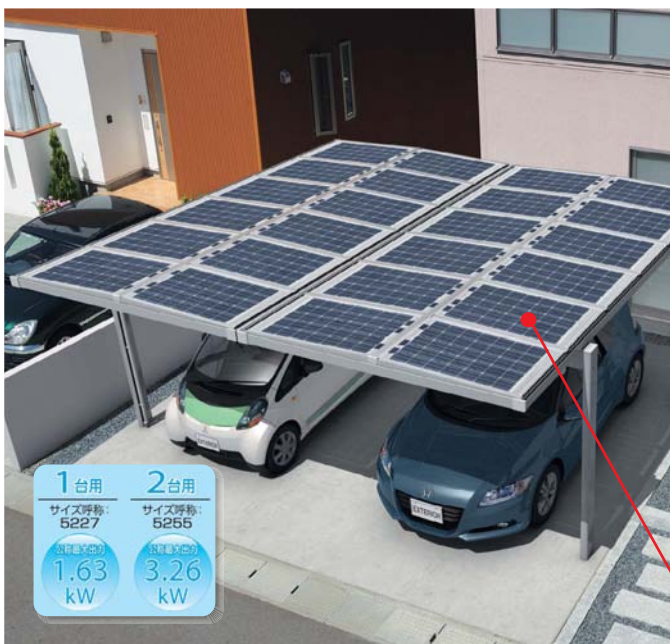
### 三協アルミ 太陽光発電システム「ソーラスターII」

カースペースに  
太陽光発電

地球温暖化対策や節電対策として、さらには非常時電源として太陽光発電は今まさに注目されています。こうした中、2012年4月末までの国内における住宅用太陽光発電システムの累計設置件数は100万件を突破し、今後もますます普及していくものと思われます。

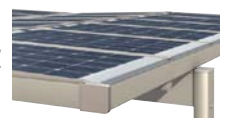
その一方で、太陽電池パネルは屋根の上に乗せるタイプが一般的なため、住宅屋根の外形や方角によっては設置が困難になったり、既築に後付けをする際には屋根に補強が必要となり費用面での負荷が大きくなる場合があります。また、住宅の外観を損ねるといった意匠面での抵抗を感じる方も少なくありません。

「ソーラスターII」は太陽光発電モジュールをカーポート屋根のパネルにして発電する、カースペースを有効利用したエコ商品です。屋根の厚みを抑え、配線等のケーブルが露出しないスタイリッシュなデザインが特長です。諸事情により太陽光発電システムの設置が難しい住宅や、既に太陽光発電をされている住宅でもっと多くの発電量を確保したいといった要望に対して、新しいエコスタイルを提案します。



#### ● 商品特徴

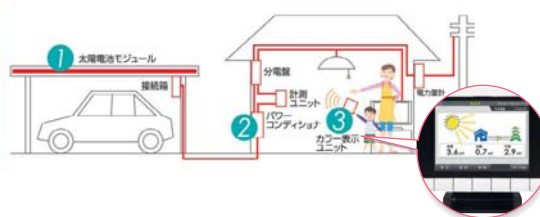
- 1 採光面積約20%のライトスルータイプ  
・太陽電池のすき間から屋根下を適度に明るくする光を採り込みます。
- 2 屋根の厚みを抑え、スタイリッシュ  
・配線も外部から見えないように配線しました。
- 3 耐風圧Vo=38m/s仕様に強度UP  
・従来品「ソーラスター」よりも設置可能な地域が拡大しました。
- 4 発電量がアップ  
・従来品よりも発電量が増えました。



太陽電池モジュールを屋根に組み込み、一体感のあるスタイリッシュなデザイン



#### ● システムの構成



・住宅用太陽光発電システムとして、余剰電力の売電が可能です。  
・発電状況が室内のカラー表示ユニット(オプション)で見ることができますので、家族で楽しく省エネに取り組みます。

#### Voice

『ソーラスターII』は、屋根の厚みを抑え、太陽電池モジュールと一体型ですっきりとしたデザインが特徴です。街にも調和し、普通のカーポートの振りをしてさりげなく発電している、そんなエコな生活を楽しむことができます。

三協立山株式会社三協アルミ社 商品開発部商品開発四課 保坂 純平



## 環境・UDに配慮したマーケットイン(5)

### 三協アルミ 社会から評価された商品

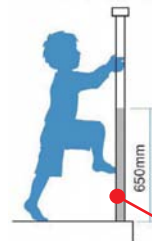
#### ● 第5回キッズデザイン賞「ユニバーサルセーフティ部門」(内閣府認証NPOキッズデザイン協議会主催)

##### 集合住宅用アルミ手すり「ティアライン」

集合住宅のベランダ用アルミ手すり(横さんタイプ)に求められる意匠性と眺望性を兼ね備えるとともに、小さいお子様のよじ登り防止という安全面にも配慮した商品です。よじ登り防止フィンは床上650mmまでに採用しています。



横さんタイプのすっきりとしたデザイン



床上650mmまではよじ登り防止フィン付き

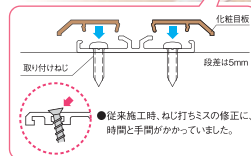


検証実験にて幼児のよじ登り防止機能を確認

##### 室内引戸用「直張り敷居レール」

床に直接ネジ止めする室内建具の敷居レールにおいて、レール本体を化粧カバーで覆うことでネジ頭の露出を無くし、小さなお子様のケガ防止に配慮しました。

また、レールと戸車の形状はお子様がぶつかった場合でも戸が外れにくいものとしています。



レールからネジ頭が露出していないので安心

●従来施工時、ねじ打ちミスの修正に、時間と手間がかかっていました。

#### ● 2011年度グッドデザイン賞(財団法人日本産業デザイン振興会主催)

##### 住宅冷暖房設備 放射パネル「サーモマイルド」【旭化成ホームズ、三菱樹脂販売と共同受賞】

「サーモマイルド」は、低価格、軽量、高耐久性とメンテナンスの簡便さを特長とする住宅用の放射式冷暖房設備です。冷温水を放射パネルに流して空気を冷やす/暖める仕組みで、エアコンのような局部的な冷風・温風による不快感や身体への負担が少なく、穏やかで人にやさしい冷暖房です。

今回の受賞では、機能・性能面に加え、パネルの大幅な軽量化や、簡易間仕切壁として用いることのできるデザイン性が評価されました。



簡易間仕切壁としても使用できるデザイン

#### ● 2011年度HEADベストセレクション賞(HEAD研究会主催)

##### ビル用高性能省エネサッシシステム「ARM-S」

「ARM-S」は2011年度HEADベストセレクション賞を受賞しました。この賞はHEAD研究会が主要な活動として構築に取り組んでいる「日本の優れた建材・部品のデータベース」の中から、特に優れている建材製品10製品に対し贈られるものです。

##### ※HEAD研究会概要

建築家、建築研究者、建材メーカー、建築施工者、その他各界で活躍する実務者の有志による研究会で、「日本の建築と部品の潜在能力をとき放つ」という目標を掲げ2008年から活動。



##### 審査委員からの選評:

「薄く、軽くというモダニズムのひとつの美学が、防水性という機能が最大限に求められるアルミ製建具という分野でここまで追求されたことはない。その開口部がフィックスであろうと開きであろうと、見付60という繊細な寸法の方立の中にすべての機構を納めた三協立山アルミのARM-Sは、日本のデザイン力、技術力の高さを明確に示した製品だと考えられる。」



## 環境・UDに配慮したマーケットイン(6)

素材開発による  
環境への貢献

### 三協マテリアル 産業用太陽光発電架台の新規開発

本年7月より再生可能エネルギー固定価格買取制度がスタートし、産業用太陽光発電は今後、需要増加が見込まれています。最近では太陽電池パネルの低価格化が進んでいることにより、架台を含めた施工費用がシステム全体に占める割合は高くなってきています。こうしたことから、施工性に優れかつ強度・耐食性などの基本性能を兼ね備えた架台が求められるようになってきました。

三協立山では本社敷地内(ショールーム隣接地)に「太陽光発電システム」を設置しました。このシステムではアルミ製架台を採用しており、従来のスチール製と比較し「軽量化」「耐食性」などに優れています。また、このアルミ型材は三協マテリアル社による高強度アルミニウム合金(A6N01-T6)で、より高強度で軽量の素材として注目されており、現在はヘリポートデッキに採用されています。



#### ● 今回導入したシステムの構成

- **サイズ:**2m×13m×2列
- **太陽電池容量:**10.3kw パナソニック製モジュール(HIT<sup>®</sup>シリーズ)48枚
- **特長:**高強度アルミニウム合金の採用により重量はスチール品の1/2、従来のアルミ品より2割の軽量化。部材のユニット化や軽量化により、施工時間を従来の1/3に短縮。

発電する電力は、隣接する本社ショールームへ供給します。予想年間総発電量9,670kWh/年、CO<sub>2</sub>削減量は3,041kg/年を見込んでいます。

#### Voice

太陽光発電の架台は太陽電池パネルと比べて目立ちませんが、要求事項が多く重要なパーツです。今後増加が見込まれるメガソーラーでは短期間に多くの材料提供が必要なため、安定した生産が不可欠ですが、今回のアルミ型材は高強度ゆえに一般のアルミ合金よりも高い生産技術が求められ苦労が絶えませんでした。しかし、社会や環境に役立つ商品を提供しているという実感が誇りに思っています。

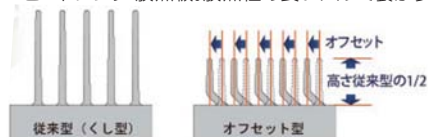
三協立山株式会社三協マテリアル社 生産技術部生産技術一課 福本 聡史



### 三協マテリアル 「ヒートシンク オフセットSS」採用の急速充電器設備

電気自動車の普及対策として、自治体や電気自動車メーカーをはじめ各地で急速充電器の設置が進んでいます。こうした中、(株)高砂製作所製の急速充電器に三協マテリアル社の「ヒートシンク オフセットSSタイプ」が採用されました。この商品は、同社従来品と比較し放熱性能の向上と省スペース化を実現しており、電子機器の小型化、高性能化に対応します。(関連記事P.23)

※ヒートシンク:放熱板。放熱性の良いアルミ製が多く使われる。



放熱性  
約30%向上

当社従来の押出型材(くし型)ヒートシンクと比べ、フィンの高さが(最大)1/2で、同等の性能を確保



「ヒートシンク オフセットSS」が採用された(株)高砂製作所の急速充電器



# 環境・UDに配慮したマーケットイン(7)

## タテヤマアドバンス 外照式サイン「アドビュー」

デザイン指向の  
電装ユニット

節電やCO<sub>2</sub>排出抑制のため商業施設における照明のLED化が急速に進んでいます。その一方で、看板の照明は蛍光灯やスポット照明であり、消費電力が大きい上に光ムラもあるものが一般的です。また照明のデザインについてもほとんど配慮されていませんでした。

「アドビュー」は、LED照明を組み込んだすっきりとした意匠が特長の外照式電装ユニットです。LEDによる大幅な省電力化を図るとともに、無駄の少ない最適配光設計により従来の照明で見られた光ムラを解消し、光源近くから看板表示面全体を極力均一に照射します。また、美しくすっきりとしたデザインでお店のイメージアップにつなげます。



省電力のLED照明を使用し、  
看板を明るく照らします

### ● 蛍光灯と「アドビュー」の比較

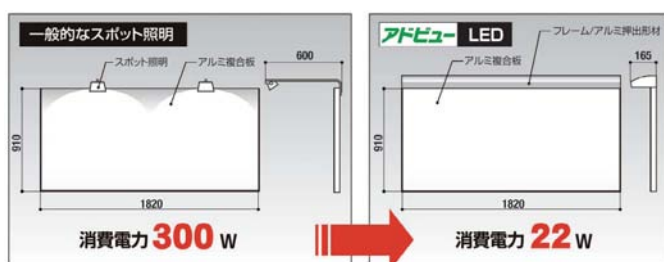


蛍光灯で  
看板表示面を  
照らした場合



「アドビュー」で  
看板表示面を  
照らした場合

### ● これまでの外照式サインより大幅に消費電力を抑えました。



一般的なスポット照明による外照式看板(150W×2灯)と比較しても電気料金が大幅に削減できるとともに、CO<sub>2</sub>排出量の軽減にも貢献します。

一般的な  
スポット照明と比べて  
約**92%**の削減効果

### ● 無駄の少ない光で、節電と明るさを両立



### ● 外照式照明の突出しを減少



### Voice

ウォールウォッシャー(照射対象である壁面を効率よく照らすために、配光設計された器具)用のレンズ付きLEDを使用することで光ムラの少ない商品になりました。LEDの持つ環境性と照明としての機能性のほか、すっきりとしたデザインで意匠性にも優れており、洗練されたイメージの景観づくりに貢献できると期待しています。

三協立山株式会社タテヤマアドバンス社 商品開発部サイン開発一課 北河 耕治



# CSR※活動の推進

三協・立山ホールディングスグループは、CSRを経営の最重要課題と位置付け、CSRの推進により社会からの信頼確保に努めています。

※CSR:Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任)

## ● CSR憲章、CSR行動規範

当グループでは、CSR推進専任部署を2006年6月に設置しました。2007年7月にはCSR憲章、CSR行動規範を制定し、それを明記した小冊子を全社員に配布して一人ひとりが日常の企業活動、個人行動において社会的責任を果たせるようCSRの意識付けを行っています。

CSR 憲章	健全な企業活動	・ お客様の立場での行動、商品の開発
		・ 法令、企業倫理、取引、公的機関等への適正な対応
		・ 反社会的勢力への毅然な態度
		・ 会社の情報、財産、資産、お客様の情報の厳重かつ適正な管理
	社会との調和	・ 社会貢献活動の実践
	環境との調和	・ 環境保全活動
		・ 環境負荷の少ない商品の提供
	人間尊重	・ 基本的人権の尊重と安全、健康な職場づくり

## CSR活動の推進

CSRにかかわる活動は、関連部署で各々推進しています。2011年度の主な活動項目は、下表の通りです。2012年度も関連部署でCSR活動に取り組み、レベルアップを図っていきます。

CSR憲章	要素	活動項目	目標・方針など	実施事項	自己評価	該当ページ
健全な企業活動	1.CS	顧客満足向上活動の推進	CS意識向上と行動の徹底	CS単位活動を263チームで実施。過去の優秀活動の事例集を作成。	☀	P27
	2.顧客要望に応える商品の提供	使いやすさを追求した商品の提供	UD設計検討書、ユーザーチェックリストでの評価実施	UD設計検討書、UDユーザー評価会で43テーマについて評価を実施。	☀	P9
	3.コンプライアンス	CSR・コンプライアンスの再徹底	CSR・コンプライアンスの理解度の向上	新任副参事、入社1年次、新入社員を対象に研修会を実施。理解できたと回答した割合約90%。	☀	P17
	4.コーポレートガバナンス	内部統制の強化	グループ内部統制のあり方検討とその展開	内部統制の評価用チェック一覧を作成し、評価項目に従って運用状況の評価。	☀	P18
	5.リスクマネジメント	グループ・リスク管理体制の構築	半期ごとの状況確認およびリスク委員会への定期的報告と経営計画への反映	半期ごとにリスク担当部門での対策進捗状況を確認し、結果を取締役会で報告。	☀	P18
	6.情報セキュリティ	お客様情報の管理の徹底	お客様情報漏出事象発生件数ゼロ	個人情報などの漏洩事故の発生無し。情報セキュリティ説明会を開催。	☀	P20
社会との調和	1.IR活動	ステークホルダーとのコミュニケーションの充実	四半期決算に則した投資家対応の強化	機関投資家への戸別訪問やスモールミーティング実施。四半期ごとの決算短信をホームページに掲載。	☀	P26
	2.地域社会への貢献	社会貢献活動を重んずる企業風土の醸成 地域に根ざした社会貢献活動の推進	助成の推進 積極的な参加	地元野球球団、高岡クラフトコンベンなどへ協賛金拠出。東日本大震災遺児に対し、あしなが育英会へ寄付金拠出。 高岡市自衛消防訓練大会、H23年度「交通安全チャレンジ1・2・3運動」などに参加。	☀ ☀	P23~P25 P23~P25
環境との調和	1.環境保全	環境保全活動の推進	CO <sub>2</sub> 排出量を2010年度比2011年度生産量原単位全体で1%削減	2011年度CO <sub>2</sub> 排出量原単位は、2010年度比0.5%増加。	☁	P33
	2.環境商品・技術	環境配慮商品の開発 省エネ・代替エネルギー対応商品の開発	断熱性能向上商品、クリーンエネルギー建材商品の開発 LEDを光源として使用したサイン、什器の商品化展開	断熱性能向上3商品、クリーンエネルギー建材2商品開発。 LEDを光源として使用した外照式サインを商品化。	☀ ☀	P10~P15 P16
人間尊重	1.人事制度	ダイバーシティの推進	障がい者雇用率1.8%以上	障がい者雇用率:三協立山アルミ2.02%、三協マテリアル1.39%、タテヤマアドバンス1.94%	☀	P29
	2.労働安全衛生	心身の健康度の向上	三協・立山ホールディングスグループの定期健康診断受診率100% メンタルヘルス窓口設置	定期健康診断受診率100%。 メンタルヘルス相談窓口(外部窓口)を設置。	☀	P30

☀ 目標・方針など達成    ☁ 目標・方針など概ね達成    ☁ 目標・方針など未達成

## ● 研修会の開催

CSRについての理解を促進するため、2011年度は新任管理職、入社1年次・新入社員を対象に研修会を開催しました。研修は、「CSRの必要性」「CSRの捉え方」「当グループの取り組み状況」などを説明した後「ケーススタディ」を行い、皆でCSRについて考えることにより理解を深めています。



新任管理職研修会



# コーポレートガバナンス

## コーポレートガバナンスの基本的考え方

三協・立山ホールディングスグループは、株主などのステークホルダーとの信頼を築き、ともに発展していくことを経営の基本方針としています。そのために、コーポレートガバナンスの強化を図り企業価値の向上に努めることが、経営の重要課題の一つと位置付けています。

具体的には、持ち株会社体制のもと経営の監督と業務執行を分離して、当社はグループ経営計画および経営戦略の策定、傘

下のグループ会社の監視・監督とともに、ステークホルダーへの説明責任を果たし透明性を確保していくことが重要な役割であると認識しています。

一方、グループ会社は、それぞれの事業領域と機能の中で明確な事業責任を負い、市場競争力をより一層強化することでグループ全体の企業価値向上を図っていきます。

## コーポレートガバナンス体制の状況

### ● 取締役会、経営会議

当社は社内取締役7名(平成24年5月末)で取締役会を構成しています。経営に関わる意思決定・業務執行の迅速化など効率性を重視した構成としています。取締役会は毎月開催し、グループ全体の基本的な経営戦略の決定とグループ経営全般の監督を行っています。また、取締役会では、事業の状況把握を迅速に行うため、三協立山株式会社社長ならびに同社の社内カンパニーである三協アルミ社、三協マテリアル社、タテヤマアドバンス社の各カンパニー社長が出席しています。

### ● 監査役監査、内部監査の状況

当社は監査役制度を採用しています。2名の社外監査役を含む3名の監査役は、取締役会などの重要な会議・委員会に出席し意見を述べるなど、業務執行の全般にわたって監督機能の充実に努めています。内部監査部門を当社および主要子会社に設置し、グループ各社の業務運営に対する監査を定期的実施しています。

## 内部統制、リスク管理体制の状況

### ● 内部統制システムの構築・運用、J-SOXへの対応

当社は取締役会決議による「内部統制システムに関する基本方針」に従い、グループ全体で内部統制システムの充実に努めています。

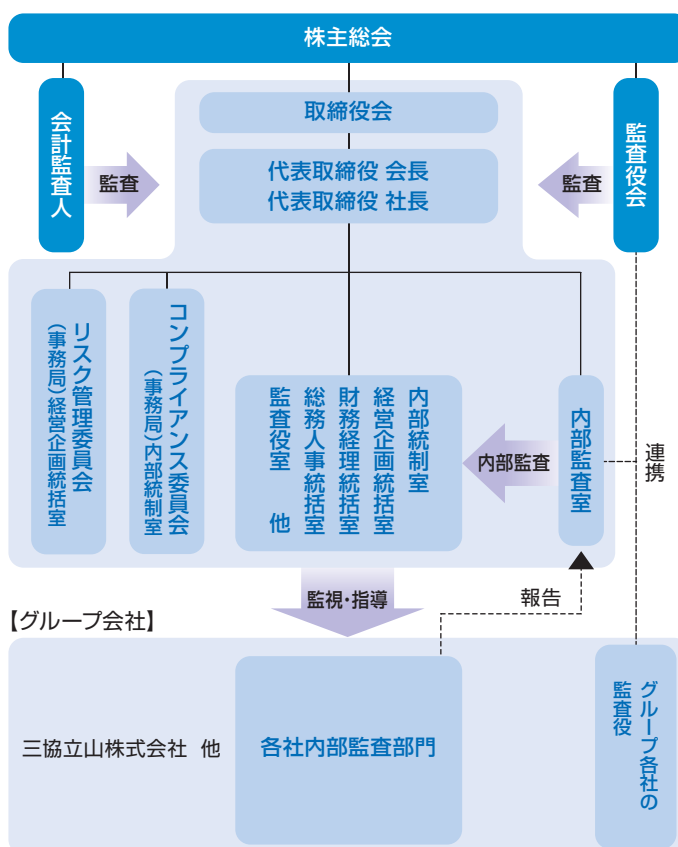
また、金融商品取引法に基づく内部統制報告制度(いわゆるJ-SOX)に対応するため、財務報告の信頼性を確保する統制の評価並びに整備を内部統制室が事務局となり、継続的に実施しています。

### ● リスク管理の基本的考え方と体制の構築

当社はリスク管理の実践を通じ、事業の継続・安定的発展を確保していくことをリスク管理の基本方針としています。リスク管理委員会を設置し、リスク管理状況の把握の一元化に努めています。なお、リスクの定義としては、①事業目的の達成に向けての「不確実性」、②事業・会社の経営の基盤を揺るがすものとしています。

また、当社に関わる不測事態の発生に対してはグループで連携し迅速かつ適切に対応策を講じるために緊急時の組織体制を含めた危機管理規程およびマニュアルを整備し、損失ならびに損害を最小限に抑える体制を整えています。

## コーポレートガバナンス体制





# コンプライアンスの推進

## コンプライアンス推進体制

コンプライアンスは、三協・立山ホールディングスグループにとって経営の重要事項の一つであると捉え、推進専任部署を2004年7月に設置しました。取締役会長を委員長とする「三協・立山ホールディングスグループコンプライアンス委員会」を設け、コンプライアンス推進基本方針に基づき、活動を進めています。

### 【コンプライアンス推進 基本方針】

(三協・立山ホールディングスグループ)

- 1 全役職員が当社グループの社会的な使命と責任を認識し、法令・企業倫理・社内規程を誠実に遵守します。
- 2 コンプライアンスに最大の価値を置き、利益とコンプライアンスが相反する場合には、コンプライアンスを優先させます。
- 3 外部から不正・不当な要求がなされても断固として拒否します。
- 4 グループ内でコンプライアンスに関する問題が生じた場合には直ちにこれを是正します。

## 今年度活動報告

### ● 各種研修・教育活動

2011年度は、営業業務を行なううえで必要となる法令知識の習得を目的とした営業管理者向け研修、新入社員研修、階層別の社員を対象とした研修および支店全体を管理するうえで必要となる知識の習得を目的とした新任支店長研修を実施しました。

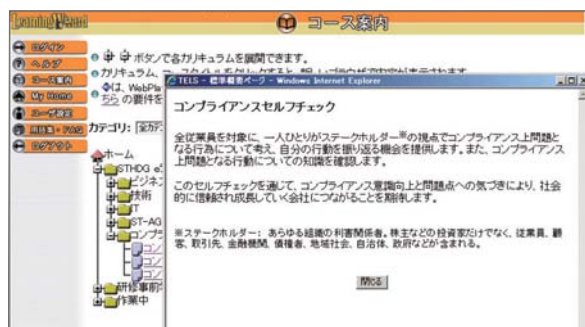
さらに、各職場に配置しているコンプライアンスリーダー向けにコンプライアンスに係る法令知識の習得を目的としたe-ラーニングを開講し、職場でのコンプライアンスの推進に努めています。



新入社員研修

### ● コンプライアンスセルフチェック

e-ラーニングを受講できる社員約4000名を対象に、コンプライアンスセルフチェックを年4回の計画で実施しています。コンプライアンス上問題となる行動や知識についてセルフチェックし、自分自身の行動を振り返ることによりコンプライアンス違反の防止に役立てています。



e-ラーニングによるセルフチェック

### ● 社内報への掲載

社内報においてコンプライアンスに関する情報を連載し、全社員のコンプライアンス意識向上を図っています。各号、コンプライアンス基本方針に焦点を絞って解説し、簡単なクイズを出題することにより理解度を深めています。



社内報

# 情報セキュリティの確保

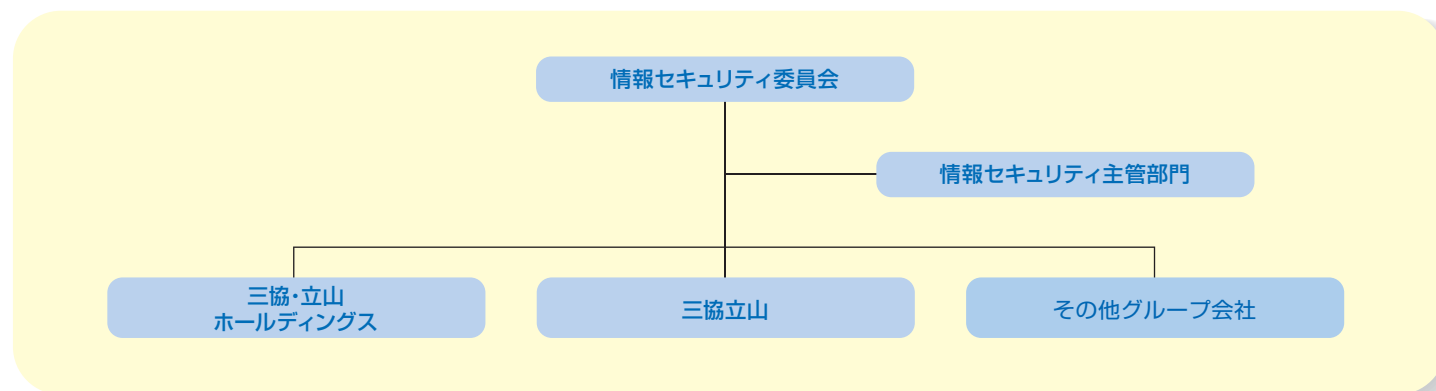
## 情報セキュリティマネジメント体制

三協・立山ホールディングスでは、情報システム担当役員を委員長とする「情報セキュリティ委員会」を設立し、グループ全体の活動状況・課題を把握するとともに対応方針を決定しています。また、同委員会での決定事項は、実行・推進部門である「情

報セキュリティ主管部門」のもと、各部門に配置された約300名の「情報セキュリティ責任者」および「情報セキュリティ推進者」によって、全社員に周知徹底を図っています。

※当グループでは、2011年度重大なセキュリティ事故は発生していません。

### 情報セキュリティマネジメント体制(2012年6月1日より)



## 情報セキュリティ確保への主な施策

### 1 教育・啓発

2011年、支店および販売子会社に対して「情報セキュリティ説明会」を開催し、セキュリティ対策の必要性や社内セキュリティルールについて教育を行いました。また今年より導入を開始したタブレット端末に関する導入や利用ルールを文書化するとともに、不適切ホームページ閲覧者への注意勧告、パソコンの郵送に関する運用ルールの強化などを実施しました。



タブレット端末利用ルール

ついては、原則利用を禁止としています。(業務上やむを得ず利用しなければならない場合は、情報セキュリティ責任者の承認に基づき利用を許可するなど柔軟に運用しています。)

### 3 アクセス権の適切な管理

社内からの情報流出リスクを低減するために、サーバ資源へアクセスする時に入力するユーザー ID や、アプリケーションを利用するために使うIDに関して、定期的な再検証(利用者と権限の確認)を行なっています。

### 4 物理アクセス対策

ホストコンピュータが設置されているマシン室を「アクセス管理エリア」に指定し、部外者や不審人物などを入室させないように、指紋認証電気錠による入出管理設備や監視カメラを設置しています。また情報センタービルには、赤外線センサー監視装置を設置することで、執務者不在時のセキュリティを強化しています。

### 2 情報漏洩対策

社外に持ち出せるモバイルパソコンには、暗号化ソフトをインストールし、万が一盗難にあっても第三者に保存されているデータを盗み見されないよう対策をとっています。また近年大容量化が進みセキュリティリスクが高まっているUSBメモリに

## Voice セキュリティ対策について

年々高度化するセキュリティリスクに対する一番有効な施策は、社員に対するセキュリティ教育であると考えます。本社だけでなく支店や関連子会社の社員一人ひとりに対して教育を行うことで、情報漏洩などのリスクが低減されます。また今後、急速な普及が想定されるタブレット端末の業務利用についても、利便性を損なうことなくセキュリティを強化できるようバランスを意識しつつ対応していきます。

三協立山株式会社 システム企画部企画管理課 光岡 知也



# 特集 Ⅱ

# 大地震への対応

私たち三協・立山ホールディングスグループでは、東日本大震災の教訓を踏まえ、大地震などの災害に対する備えを進めています。また、今なお不自由な生活を余儀なくされている被災者への継続的な支援も行っていきます。

## 大地震への備え

### ●大地震対応マニュアル

大地震(震度6弱以上)発生時における行動指針として、具体的な行動と注意事項をまとめました。これをカード型マニュアルとしてグループ社員全員に配布し、常に携帯することで意識を高めています。



- ①地震が発生した瞬間の対応
- ②揺れがおさまったら行うこと
- ③会社に連絡することなどが記載されています。

### ●非常用物資の備蓄

帰宅困難者の発生に備え、全国の支店・営業所などに短期間の事務所宿泊を想定した非常用物資の備蓄を行いました。



主に水や食糧を非常用物資として備蓄

### ●「安否確認システム」の導入

大地震が発生すると電話回線が制限され、電話を利用しての安否確認は困難で時間を要するため、パソコンや携帯電話を利用し個人ごとに安否情報を連絡する仕組みです。

**安否確認登録**

携帯電話やパソコンを使って安否を登録するためのシステムです。  
※必須

社員番号  
所属部署

お名前  
お電話番号

会社名・部署名

1. 本人の安否  
 A: 無事  
 B: 軽微なケガ  
 C: 重傷のケガ

2. 家族の安否  
 A: 無事

安否情報の  
一元管理

パソコンで 携帯電話で

#### 導入のメリット

- ・外出中でもパソコンや携帯電話から、安否情報などが入力可能。
- ・登録された情報は社外設置サーバーにて一元管理するため、家族などへ安否情報の提供により安心を届けることができる。
- ・災害対策責任者などへ迅速かつ正確な情報提供が可能のため、的確な状況把握と初動対応判断が行える。

### ●防災訓練

各工場、事業所では、地域の消防署の協力を得て、地震発生を想定した防災訓練を実施しています。震災は突然襲ってくるので、日頃からの心がけが大事であると認識するとともに、万一の時にきちんと動けるよう、何度も繰り返し訓練する事が大切であると考えます。



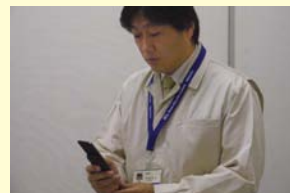
ケガ人の搬送

#### 本社(平成23年11月29日)

富山県西部を震源とした震度6弱の地震が発生し、ケガ人1名、危険物貯蔵施設より危険物流出、建物から出火との想定で訓練を実施しました。



消防署の講評



安否確認システムの入力テスト実施

#### 石川工場(平成23年5月12日)

宝達志水消防署立会いのもと、深夜に能登地区で地震が発生したと想定し、全館停電の状況で夜間勤務者による総合防災訓練を実施しました。



夜間に訓練を実施

#### 高岡工場(平成23年11月16日)

避難誘導、火災発生時の通報連絡、負傷者救護、初期消火、避難人員報告等を行い、最後に高岡消防署より講評を頂きました。



避難人員の報告

#### 奈呉工場(平成23年11月15日)

各自の役割を認識し、迅速な行動が取れるよう、地震後の対応について重点的に確認、検証しました。



対策本部への報告

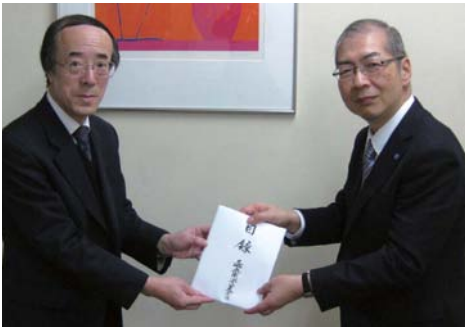


被災地支援

● 「あしなが育英会」に募金を寄贈

現在、推定1800人とも言われる震災遺児に対する支援が大きな課題となっています。

当グループは、3月に社員からの募金と会社からの拠出金をあわせた500万円を「あしなが育英会」の東日本大震災・津波遺児募金に寄贈しました。



目録の贈呈

● 被災地自治体より感謝状を授受

当グループは東日本大震災における被災地支援への協力に対して、宮城、岩手、福島の名各県知事より感謝状を受けました。



宮城県より感謝状を授受

● 継続的な支援活動

東日本大震災発生直後より開始した私たちの支援活動は、これからもさまざまな形で継続的に行っていきます。

これまでの主な支援活動

- ・震災翌日の2011年3月12日に生活支援物資を積んだトラックを仙台に向け送り、継続的に支援物資を搬送
- ・当グループならびに関連先含めて義捐金を寄贈(救援物資を含め6,000万円)
- ・被災した高校生の社宅受け入れに関する表明
- ・経済団体からの要請に対して救援物資の受け入れ・集積地として自社工場を提供
- ・野球BCリーグの公式戦において復興支援試合を主催、観客数に応じた義捐金を拠出(2011年4月17日。2012年7月1日の第2回は雨天延期)



震災翌日に高岡本社から支援物資の第一陣が出発



支援物資の集積拠点を提供。社員がボランティアで協力



野球BCリーグ富山サンダーバーズ 永森球団社長へ義捐金の目録を贈呈

● パナソニックとの共同の緊急取り組み

仮設住宅の冬期断熱対策が急がれる被災地に対し、パナソニックと三協立山(三協立山アルミ)との両社共同による取り組みとして、福島県福島市に建設されている仮設住宅のうち、約100戸分の内貼断熱パネルを無償提供しました。

この断熱改修工事については、パナソニックの内貼断熱パネル(室内の壁に貼り付ける薄型の断熱パネル)と、三協立山の仮設住宅に適應させた内窓ユニットを組み合わせています。



樹脂内窓ユニット

内貼断熱パネル

福島県の仮設住宅において「内貼断熱パネル・窓システム」を施工しているところ

## 地域社会とともに(1)

三協・立山ホールディングスグループは、地域社会の一員として、社会貢献活動やコミュニケーション活動など、地域との共生に向けた活動に積極的に取り組んでいます。

### コミュニケーション活動

#### ● 急速充電器設備の導入と一般の方への無料開放

三協マテリアル社では急速充電器設備一式および電気自動車一台を導入しました。急速充電器は無料開放し、自社のみならず社会全体のEV普及を促進することで省エネやCO<sub>2</sub>排出抑制に寄与していきます。

##### <急速充電器>

導入した設備は(株)高砂製作所の製品で、放熱部品に三協マテリアル社の「ヒートシンク オフセットSSタイプ」が採用されています。(関連記事P.15)



急速充電器設備と電気自動車

同設備は電気自動車をご利用の一般の方に無料で開放しています。一般利用者への開放は、富山県内において(官公庁や電気自動車メーカーを除き)当社が初となります。(2012年2月時点)

##### <電気自動車>

・ガソリンエンジン車両と比較し、CO<sub>2</sub>排出を大幅に抑えた環境にやさしい次世代の主要交通手段として期待されています。走行時の環境性だけでなく、街を走る姿によって電気自動車に対する理解と普及に貢献していきます。

### Voice

沖縄のEV・pHVタウン視察で、近未来は街に電気自動車(EV)が普通に走っていると実感し、当社もその実現に貢献したいと考えました。

EV普及の鍵となる急速充電器の設置にあたり、一般無料開放とすることで防犯性などを心配する声もありましたが、高岡市には急速充電器施設が少ないことと、一般の方が使えてこそEV普及に貢献できるとの思いから一般開放を決めました。社員だけでなく街の人にも身近になったEVで近未来を感じてもらいたいと思います。



三協立山株式会社三協マテリアル社 技術開発部技術企画課  
中村 繁央

#### ● 植物工場の試験導入による地域活性化の取り組み

農商工連携による地域農業の活性化と空き工場などの遊休施設の活用を目的として、三協立山では人工光(LED)による水耕栽培型植物設備を試験導入しました。2011年9月より運用を開始し将来の事業化を図っています。この設備ではレタスなどを年間約6トン栽培可能であり、現在は当グループの社員食堂



植物工場で育つ野菜

で消費しています。

今回の試験導入を発展させ、高い安全性と栄養価を持つ野菜を生産するとともに、地元事業者・農業者の参加により産地化の道筋をつけ、地場産業の活性化を目指します。



社員食堂で提供される新鮮な生野菜は、菌ごたえもよく好評です



## 地域社会とともに(2)

### ● 消防訓練大会への参加

#### 高岡市自衛消防隊消防訓練大会

9月1日に高岡市防火管理協議会主催の「第41回高岡市自衛消防隊消防訓練大会」が、高岡スポーツコアグラウンドで24事業所、160人の選手を迎えて開催され、当グループからは三協立山アルミと三協マテリアルの2チームが参加しました。

#### 射水市消火技術競技会

9月28日に射水市危険物安全協会主催の「射水市消火技術競技会」が射水市消防本部屋外訓練場で開催され、市内19事業所95名が日頃の訓練の成果を発揮しました。当グループからは、新湊工場、射水工場、奈呉工場、三精工業が参加し、優秀な成績を収めることができました。



高岡市自衛消防隊消防訓練大会競技風景



射水市消火技術競技会屋内消火栓操法競技

### ● 「インターンシップ」への受け入れ

三協立山では、毎年、学校などのインターンシップ事業に協力し、学生たちを受け入れています。(2011年度は16名)

仕事とはどういうものなのか実際に体験することにより学んでいただけたものと思います。



経理・財務での体験

#### 受け入れ実績

学年	期間	受入部署	人数
高校2年	2011年7月6日～7日	福岡工場	2名
高校2年	2011年7月27日～29日	新湊工場	2名
大学3年	2011年8月18日～31日	情報システム	1名
大学3年	2011年8月18日～31日	情報システム	1名
専門学校1年	2011年8月18日～31日	生産技術部	2名
専門学校4年	2011年8月18日～31日	生産技術部	1名
高校2年	2011年11月15日～17日	福野工場	3名
高校2年	2011年11月15日～17日	福光工場	1名
高校1年	2012年3月2日～7日	経理・財務	3名

### とやま環境フェアへの出展

10月22、23日開催の「とやま環境フェア2011」に出展し、自然の風を効率よく採り入れるサッシやLED看板、マグネシウムの軽さを体験していただくコーナーなど、当グループのさまざまな環境配慮商品や技術を紹介しました。

来場された方々からは「勉強になった」「いろいろな取り組みをしているんだね」などとお応えいただくことができました。



クイズを交えて展示

### ● 「みどりのカーテン」

夏の日射をさえぎり冷房効率を向上させるため、工場や事務所では「みどりのカーテン」を作りました。



協立アルミ井口工場



三協立山本社

#### 協立アルミ井口工場

- ・省エネや従業員の環境意識向上の目的だけでなく、木工専門工場であることから、木=緑を広めたいと考え取り組みました。
- ・地元中学校の課外授業として、エコに関する事例の視察を受けました。建物がグリーンカーテンで覆われた様子は子供たちに好評でした。
- ・みどりのカーテンで育て、収穫したゴーヤなどの野菜は社員が持ち帰り、自作料理の写真を掲示したり来年は何を植えようかなどと話題が盛り上がり、社内コミュニケーション作りとしてもよかったです。

### ● 「金屋町楽市と隈研吾展」に出展協力

当グループが出展協力【「ポリゴニウム」(アルミ型材製ディスプレイシステム)を提供】している「金屋町楽市と隈研吾展」が丸ビル1Fマルキューブ(東京丸の内)にて開催されました。(2011年8月25日～8月31日)

会場では北陸を中心とした新進気鋭の若手作家の作品展示・販売と併せて、「ポリゴニウム」の組み合わせによる「アルミの家」など高度なアルミ加工技術と斬新なデザインの融合でアルミの可能性を新たに追求した展示内容でした。



ポリゴニウムと作品展示





## 地域社会とともに(3)

### 社会貢献活動

#### ●「クールビズ、ウォームビズ運動」の実施

当グループは、環境省が地球温暖化防止国民運動として提唱する「クールビズ運動」、「ウォームビズ運動」に賛同し、2005年度より継続して実施しています。2011年度は節電対応によりクールビズ期間を5月16日～10月31日に拡大しました。

なお、2012年度の夏は5月14日より実施し、事務所の節電対策も昨年より継続しています。

#### <事務所の節電対策>

- ・照明の節電対策(蛍光灯本数の削減と照明不要エリアの消灯徹底)
- ・空調の節電対策
- ・OA機器の節電対策(パソコンの設定変更と個別管理の徹底)



クールビズの呼びかけ

#### ●「ノーマイカーデー」の実施

当グループは2002年よりノーマイカーデー宣言事業所として県や市の実施運動に参画し、社員に理解と参加、協力の呼びかけを継続して行っています。(グループでは毎月第二水曜日をノーマイカーデーとして設定)

#### 2011年度高岡市民ノーマイカーデー実施結果

「高岡市民ノーマイカーデー」実施日		第19回 2011.10.5	第20回 2012.4.4
参加対象者数(三協立山本社内勤務者)		914人	929人
ノーマイカー実施者数 (通常ノーマイカー通勤者含む)		89人 (9.7%)	90人 (9.7%)
通勤方法	公共交通機関利用者	17人	10人
	自転車通勤者	18人	2人
	徒歩通勤者	47人	43人
	その他(他車に同乗など)	7人	35人
削減延べ往復距離数		969km	726km
削減CO <sub>2</sub> 排出量		234kg-CO <sub>2</sub>	168kg-CO <sub>2</sub>

#### 上級救命講習会

当グループでは、毎年9月に高岡消防署の協力を得て上級救命講習会を実施しています。

救命手当の習得は、会社の中だけでなく日常生活においても役立つものとして、事務職も含めた従業員に自主的な参加を呼びかけており、2011年度は56名が受講しました。

講習は消防署救急隊員を講師として、応急手当や止血法などの講義のほか、AEDを用いての心肺蘇生法などの実技も行います。講習修了者は高岡市消防本部より「上級救命講習修了証」の交付を受け、人命救助に少しでも貢献できればとの思いを新たにしました。



救急隊員指導による心肺蘇生法の実技



三角巾の使用法講習

#### ●「クリーン作戦」の実施

当グループでは地元地域の美化活動に貢献することを目的として「クリーン作戦」を実施しています。

三協マテリアル社高岡工場では、4月13日に工場周りの道路沿線と側溝、農業用水沿線などの清掃を行いました。



工場周辺のゴミ拾い

#### ●「献血」の実施

当グループは、毎年富山県赤十字血液センターの献血活動に協力しています。(年3回 4、8、12月に実施)

さまざまな社会貢献活動の中でも、献血は身近で人の生命に関わる大切な問題であると認識しており、従業員に対して自主的で積極的な参加を呼びかけています。

#### 2011年度献血活動実施結果

	夏の献血 2011年8月	年末の献血 2011年12月	春の献血 2012年4月
受 付 者 数	288名	263名	301名
献 血 者 数	249名	226名	253名
200ml献血者数	24名	21名	19名
400ml献血者数	225名	205名	234名

#### ●「エコキャップ運動」

「ペットボトルのキャップで世界の子どもにワクチンを届けよう」との活動趣旨に賛同し、NPOエコキャップ推進協会へキャップの寄付を行っています。



キャップの寄付

## 株主とともに

### 利益配分に関する基本方針

当社は、グループ全体の経営基盤の強化と収益力向上によって、継続的な企業価値の向上を図り、株主の皆様のご期待に応えていきたいと考えています。

### IR※活動

IR活動は広報・IR部が担当しており、株主、投資家をはじめとするあらゆるステークホルダーの皆様に、当グループの企業活動に対する理解を促進し、適正に評価していただくために、企業情報を適時・適切に開示しています。具体的には、当社ホームページ上に決算概要をタイムリーに掲載するとともに、関連部署と連携して社外への各種重要情報の開示を行うなど、経営の透明性と迅速性で公平・正確なディスクロージャーに努めています。

2011年度は、機関投資家・アナリストに対し、スモールミーティング開催をはじめ、国内の主要な機関投資家を訪問し、活発

な意見交換を行いました。また、証券会社主催の個人株主向けセミナーに参画し、事業概要、長期VISION-2020などを説明し当社理解促進に努めました。投資家およびアナリストの皆さまからいただいたご意見や助言などは、適宜、経営幹部にフィードバックし、今後の経営に活かすように努めています。



個人投資家向け会社説明会

※IR(Investor Relations、インベスター・リレーションズ):企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な情報を適時、公平、継続して提供する活動全般

### 情報開示の考え方

当社は、金融商品取引法などの諸法令ならびに東京証券取引所の定める有価証券上場規程(以下「上場規程」という)に準拠した情報開示に努めるほか、当社をより理解していただくために有効と思われる情報についても、迅速に開示します。

なお、上場規程に該当する情報は、同規程に従い、東京証券取

引所の提供するTDnet(適時開示情報伝達システム)を通じて開示します。上場規程などに該当しない情報についても、投資判断に影響を及ぼすと思われる場合は、その重要度および緊急性に応じて、適宜、適切な方法で速やかに開示します。

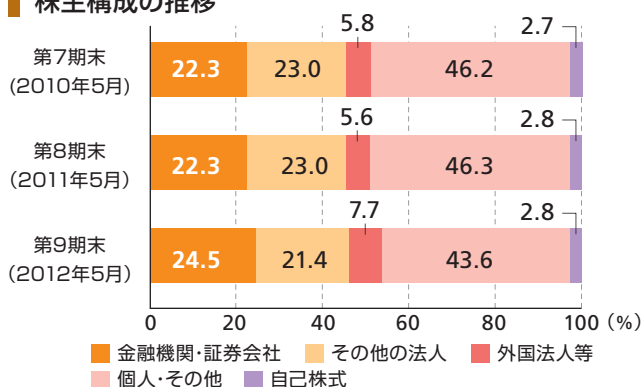
#### 株主構成(平成24年5月31日現在)

発行可能株式総数	496,000,000株
発行済株式の総数	324,596,314株
株主数	28,546名

#### 所有者別株式分布状況 第9期末(2012年5月)

区分	株式数	比率
政府・地方公共団体	0	0.0
金融機関	74,874,706	23.1
証券会社	4,527,752	1.4
その他の法人	69,465,294	21.4
外国法人等	25,156,042	7.7
個人・その他	141,507,559	43.6
自己株式	9,064,961	2.8
計	324,596,314	100.0

#### 株主構成の推移



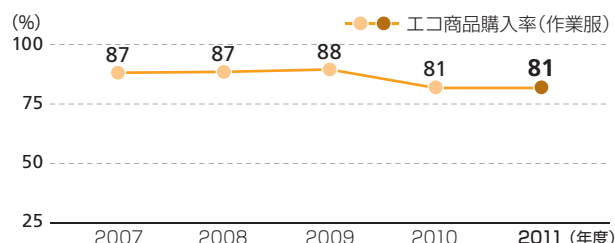
## 取引先様とともに

### グリーン調達の促進

当グループでは、環境への負荷が少ない資材などの優先調達(グリーン調達)を取引先様とともに推進するために、2001年7月に「グリーン調達ガイドライン」(2008年7月に第2版に改訂)を制定しています。

また、事務用品、作業服、OA機器などの一般品についても、エコ商品の購入を促進しています。

#### 作業服のエコ商品購入実績



# お客様とともに(1)

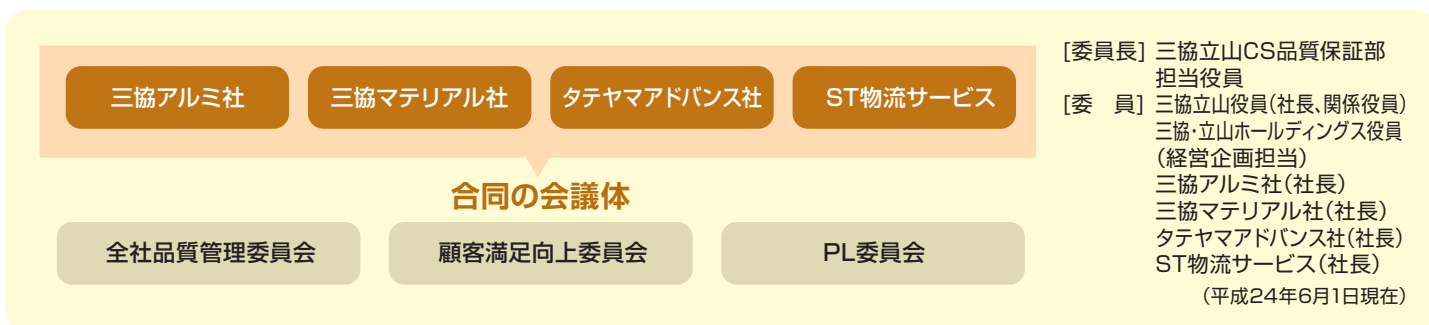
## お客様にご満足いただくために

三協立山は、信用と信頼を大切にしています。信用と信頼は、日頃の企業活動において消費者様やお得意様を含めた全てのお客様の期待に応えることで、少しずつ醸成されていくものと認識しています。そして、企業活動の一つひとつがお客様満足につながることを念頭において、社員一人ひとりが日々の業務に取り組んでいます。

顧客満足に関する活動方針は、「顧客満足向上委員会(CS委員会)」を通じて、品質向上に関する活動方針は「全社品質管理

委員会」を通じて決定されて取り組んでいます。三協立山のカンパニー部門の三協アルミ社、三協マテリアル社、タテヤマアドバンス社と、グループ内のST物流サービスとの間では定例の連絡会を設け、品質の向上に関する活動の連携を図っています。また、消費者様に安心してご使用頂けるよう、製品の安全に関わるPL(製造物責任)対応として、「PL委員会」を設置し、前出の2つの委員会と連携しつつ、信用と信頼の維持向上に努めています。

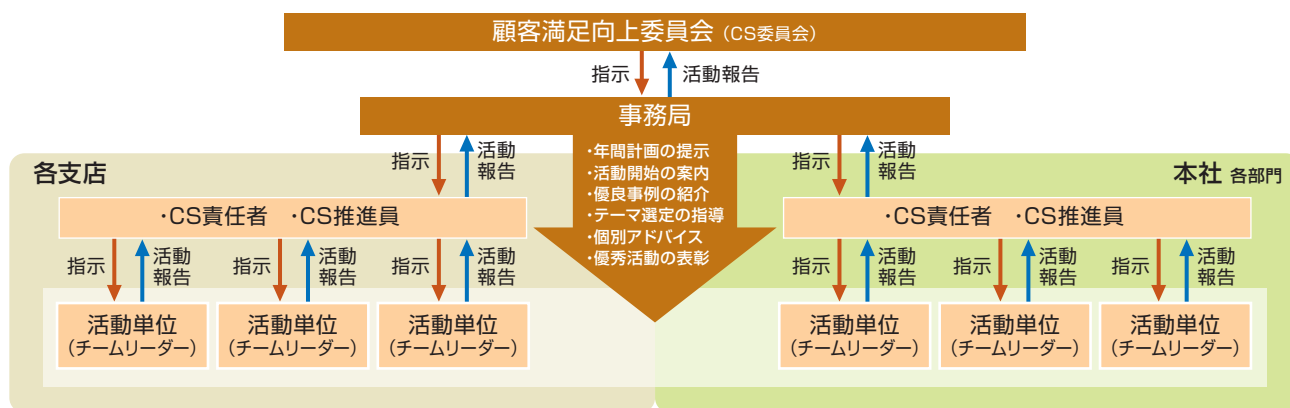
### ● 顧客満足推進体制



## CS活動状況

三協立山では、「CSポリシー」の実践を目的に「CS単位活動」を行なっています。この活動は、日々の業務をお客様の立場・視点で考え行動し、CSを実践していく活動です。2002年より開始し、2011年度は263単位(チーム)が参加しました。この取り

組みを通じて、日頃の業務の中に「CSポリシー」をより一層根付かせるとともに、グループ内へのベストプラクティス(優秀事例)の水平展開を図ることで、「お客様満足」を目指します。

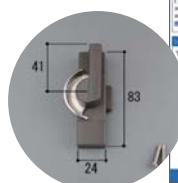


### インターネット販売「パーツショップ」

「パーツショップ」は、三協アルミ・住宅サッシのメンテナンス部品のインターネット販売サイトです。

お客様ご自身で部品を交換される場合を想定しており、カテゴリより選択を進めると該当部品が寸法入りの画像でご確認いただけるようになっています。また、「部品+ビス+交換要領書」のセットでお届けしており、初めてのお客様でも無理なく交換が行えるよう配慮しています。

 [パーツショップ http://parts-st-grp.jp/](http://parts-st-grp.jp/)





## お客様とともに(2)

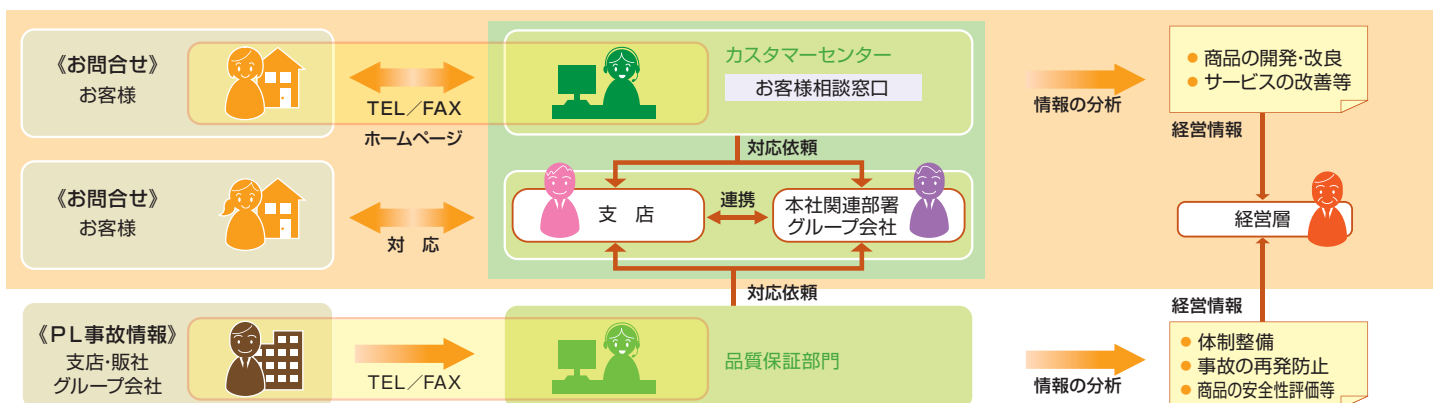
### お客様の声を活かすために

三協立山は、消費者様やお得意様を含めたお客様からの相談窓口としてカスタマーセンターを設置し、電話、FAX、ホームページなどによりお問合せをいただけるようにしています。相談窓口では、会社を代表する窓口として信用と信頼を担っているという自覚をもち、適切な対応を心がけ、丁寧かつ迅速な対応に努めています。

また、「お客様満足第一」で一つひとつのお問合せを真摯に受け止め、日々お客様から寄せられる「お客様の声」を系統立てて

整理・分類し、さまざまな角度から分析を行いつつ、課題を抽出しています。これらの課題を経営情報として経営トップや関係部署へフィードバックを行い、商品の開発・改良およびサービスの改善などに役立てています。「消費者満足」「顧客満足」の更なる向上を目指し、ホームページやカタログなどの情報提供ツールをよりわかりやすく、ニーズに応えられる情報となるよう改善に努めています。

#### お客様情報の処理フロー



### 安心してご使用していただくために

三協立山は、製品の安全性確保とお客様の安全確保に関する法令や品質に関する基準を遵守しています。開発段階では、リスクレベルの「見える化」による安全性の評価(R-Map※を用いたリスクアセスメント)を行い、使う人の立場に立って、より使いやすい、安全な商品作りに取り組んでいます。また、取扱説明書や注意ラベルに限らず、カタログの記載内容については不正競争防止法、消費者基本法などの各種法規に準拠しているかどうか、さらに、所属工業会のガイドラインに沿っているかどうかについて事前にチェックして、お客様に必要な情報を明確かつ平易に表示するよう取り組んでいます。

当社製品に関わる事故が発生した場合、速やかに必要な関連情報を収集して、お客様の視点に立った迅速かつ適切な事故処理を行うとともに、重大な製品事故については消費生活用製品安全法などの法令に基づいて所轄官庁へ報告を行います。

また、事故の原因究明と再発防止を徹底し、製品の安全性確保に努めていきます。

#### ※R-Map

危害の程度と発生頻度から、リスクの大きさを評価する、リスク・アセスメントの手法の一つ。リスクが大きい場合は、対策を検討して社会的に許容されるレベルにまで低減させる。

#### ●製品の安全性確保に関する基本方針

三協立山では、これまで開発・製造・販売する製品の安全・安心への取り組みを進めてきました。

より一層、お客様に安心してお使いいただける製品を提供するために、自主行動基準として「製品安全宣言」「製品の安全性確保に関する基本方針」を定め、製品の安全性確保を最優先に企業活動を行っています。

#### 三協立山Webサイト「よくあるお問い合わせ(FAQ)」をさらに充実

三協立山Webサイトの「お客様サポート」ページに掲載している「三協アルミ・よくあるお問い合わせ(FAQ)」について、掲載件数を増やしさらに充実させました。

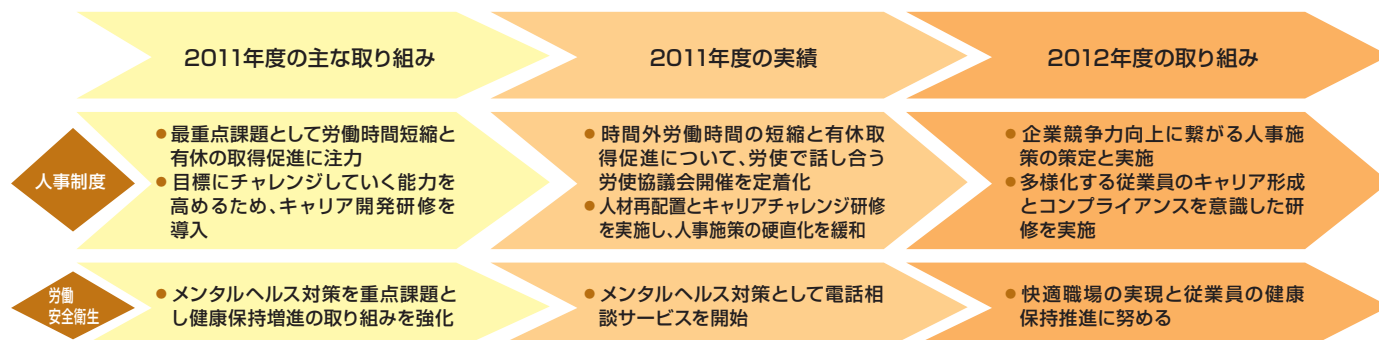
わざわざ直接弊社へ電話やメールでお問い合わせいただくなくても、お客様ご自身で疑問点を解決していただけるよう、イラストやアニメーションなどでわかりやすく解説しました。



よくあるお問い合わせ(FAQ)  
<http://faq.st-grp.dga.jp/>

## 従業員とともに(1)

三協・立山ホールディングスグループは、お客様へ喜び・満足を提供するため、健康で新しい価値を創造できる人材の育成と、安心で健康な働きやすい職場づくりを目指しています。



## 人事制度について

### ● ダイバーシティの推進

当グループでは多様性尊重の風土作りに向けて、2007年度に発足した専任部署(多様性推進グループ)が中心となって、さまざまな取り組みを行っています。

### ● 女性管理職者育成

2008年度より、女性管理職登用に向け当グループ女性社員が「ビジネスリーダー養成セミナー」(外部研修)を受講しています。

この研修では、管理監督者に必要な広い視野とリーダーシップ、上司やスタッフ、顧客に通用するコミュニケーション力など必要な実践的スキルを身につけることができる内容となっており、2011年度までに29名受講しました。現在、受講者の内4名が管理職として活躍しています。



「ビジネスリーダー養成セミナー」のパネリストとして参加した三協立山人材開発課の森川課長

### ● 障がい者雇用

障がい者雇用については、2009年度以降は法定雇用率を上回り2%程度となっています。今年度は、本社ショールームのバリアフリー整備を行い、車椅子を使って日常業務ができるようになりました。また、通勤が困難である障がい者が在宅勤務をするなど、障がい者が働きやすい環境や制度整備を行い活用しています。



本社ショールーム

### 障がい者雇用率



### ● ワーク・ライフバランスの推進

当グループでは、従業員が多様な働き方ができるよう人事制度の整備を行っています。

子育てや介護をしている方が仕事と生活が両立できるような制度として、育児短時間勤務制度(子の小学校3年生の学年末まで)、介護短時間勤務制度(3年間利用可能)があります。また、在宅勤務制度も利用できます。このほか、勤務時間選択制度やノー残業デイ(水・金)の実施、有休の計画付与などを取り入れ、長時間労働削減にも取り組んでいます。



2009年「くるみん」を取得

## 社内Voice

次女が生まれ、子供が2人になりました。私たち夫婦は共働きで、近くに頼れる家族がないので、以前から子育ては夫婦でなんとかしようと考えていました。そこで、私が長女の保育園の送迎をすれば乗り切れると思い、育児短時間勤務を利用することにしました。男性の育児短時間勤務制度利用者は、会社の中でも私が初めてですが、家庭の事情や仕事に合わせて制度を利用すれば、父親も十分に育児参加ができると思いました。



三協立山株式会社三協マテリアル社 関東支店営業二課 新田 正智

## 従業員とともに(2)

### ● 遺児育英年金制度

遺児育英年金制度は従業員が在職中に死亡(または、高度の障がいとなり)退職した場合に、遺児(子供)に対して奨学資金を援助する制度です。この制度は従業員が安心して働くため労働組合と共同で行っている福利厚生施策で、子供が18歳(高校卒業)になるまで援助するものです。

### ● 従業員満足度調査

職場の風通しの向上などを目的に、毎年「従業員満足度調査」を実施しています。「会社評価」「組織構造」「職務遂行」「人間関係」「風土・厚生」について全従業員を対象にアンケートを行い、結果は社内ポータルサイトに公開するとともに各部門へフィードバックし、職場改善の指標として捉え、人事施策の立案にも役立てています。なお、2011年度は、組織力を高めることに主眼をおき、「コミュニケーション」「人材開発」を含め「自部門で最も重要で改善効果が期待できるテーマ」を決めて、従業員満足度向上を図りました。

## 労働安全衛生について

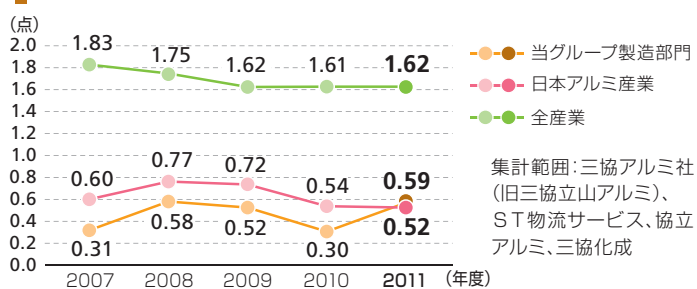
### ● 基本理念

当グループは、安全衛生の確保は企業の社会的責任であることの認識を高め、働く人一人ひとり、けがや病気、事故に対して「させない」「起こさせない」という強い信念と愛情のもと、職場の危険源低減活動を進めています。また、働く源である元気なからだところの健康づくりにも積極的に取り組んでいます。

### ● 安全活動

リスクアセスメントの継続実施により、災害防止対策を推進しています。また、新たな目で危険箇所の抽出や改善を行うため、安全担当者、労働組合、グループ会社でチームを編成し、各工場を巡視して事業所間の活動のレベル合せを行っています。

### ■ 労働災害度数率



$$\text{労働災害度数率} = \frac{\text{休業災害件数} \times 100\text{万時間}}{\text{延べ労働時間}}$$

### メンタルヘルス相談窓口

当グループは、「安全第一」と「健康保持増進」を理念として掲げ、基本活動においても「心の健康づくり活動の強化」を盛り込み、厚生労働省が提唱する「4つのケア」※を主体に取り組んでいます。今年度は、グループ社員6,500名余りの心の健康の保持増進のため、4つのケアのひとつである事業場外資源によるケア「外部相談窓口」を設置し、社外専門カウンセラーによるメンタル面のフォローができる環境を整備しました。

#### ※メンタルヘルス「4つのケア」

- ・セルフケア
- ・ラインによるケア
- ・事業場内産業保健スタッフ等によるケア
- ・事業場外資源によるケア

### ● 能力開発

業務遂行に必要なスキル向上に自ら進んで取り組む従業員を支援するために各種制度を設けています。資格取得に対する報奨制度「ビジネスライセンス手当」や、学習手段を提供する「通信教育制度」「社内e-ラーニング」などがあげられます。また、ビジネススタイルから取り組むべき能力開発のテーマを明確にする「能力開発指針」の整備を進めるなど、従業員の能力開発をさまざまな観点からサポートしています。

### ● 階層別研修/キャリアデザイン研修

新入社員研修をはじめ、入社1年次、2年次、3年次のフォローアップとして、また昇格のタイミングを捉えて、その段階で必要とされる知識とスキルの習得、業務マインドの向上を目的に研修を実施しています。2011年度は、新たに5年次と3年目管理職に対してキャリアデザイン研修を導入し、「5年後のありたい姿」を定め、改めて力強い一歩を踏み出すことを目指しました。



新入社員研修

### ● 健康活動

長期疾病休業者数の減少を図るため、従業員の疾病予防・改善を行う上で、基本となる健康診断結果を基に再受診の勧奨や保健指導などのフォローを行っています。

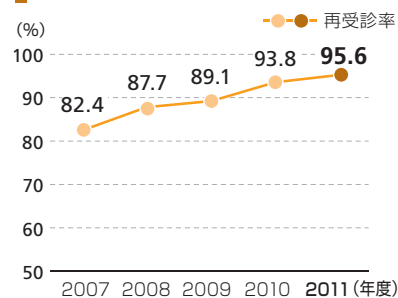
今年度は支店勤務者を対象に重点的な取り組みを行いました。支店責任者に再受診状況を明示するとともに、健康管理の担当者同士が他支店の進捗を共有できる環境を整備しました。

こうした取り組みが意識付けにつながった結果、再受診率は95%を越えるまでになりました。

この他、過労死を防ぐために、労働時間が長い従業員を対象に産業医による面接指導を行っています。

安全衛生意識の高揚を図る目的で、毎年グループ全社から標語を募集し、優秀作品を表彰しています。今年は3,785件の応募がありました。

### 健康診断の再受診率



### 「無くそう「残業」、増やそう「家族との対話」」

2011年度安全衛生標語入選作品



# 環境基本理念と環境とのかかわり

三協・立山ホールディングスグループでは、経営理念・行動指針に基づき、環境基本理念、環境方針などを展開し、環境問題については最重要課題として位置付け取り組んでいます。

環境スローガン

環境基本理念

環境方針

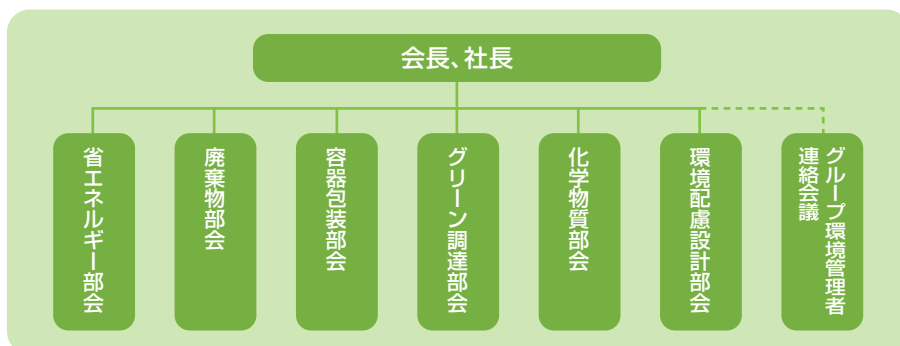
## 創ろう美しい地球を

三協・立山ホールディングスグループは、地球環境問題を最重要課題として認識し、全ての事業活動を通じ地域や地球の環境保全に取り組み、人と自然にやさしい豊かな社会づくりに貢献いたします。

- ① 事業活動における環境負荷低減
- ② 環境配慮商品の充実・推進
- ③ 環境経営および環境リスクへの対応
- ④ 環境コミュニケーションの促進

## 推進体制・部会

当グループの環境政策については、課題別部会を設置し具体的に展開しています。



## 環境とのかかわり

当グループでは、主にリサイクルが容易なアルミニウムを材料とし、エネルギーや水、化学物質を使用して商品づくりを行っています。その過程として、資源の消費、廃棄物やCO<sub>2</sub>の発生とい

う形で、環境に負荷を与えています。このような負荷を低減するためのさまざまな活動を通じて、地域や地球の環境保全に取り組んでいます。



# 環境行動目標と実績

## 2011年度の活動目標と実績

環境方針	取り組み項目	中期環境行動目標 (2010年度～2012年度)	2011年度 目標	2011年度 実績	自己評価	掲載ページ
事業活動における環境負荷の低減	地球温暖化対策 (省エネルギー対策)	・エネルギー使用量を2009年度比2012年度生産量原単位全体で3%削減	・2009年度比 全体で2%削減	・2009年度比 全体で0.9%増加		P33～34
		・CO <sub>2</sub> 排出量を2009年度比2012年度生産量原単位全体で3%削減	・2009年度比 全体で2%削減	・2009年度比 全体で8.6%増加		P33～34
		(長期目標) ・CO <sub>2</sub> 排出量を1990年度比2012年度30%削減	——	(長期目標) ・1990年度比 12.6%削減	—	P33～34
		・輸送段階におけるCO <sub>2</sub> 排出量を2009年度比2012年度輸送量(トンキロ)原単位全体で3%削減	・2009年度比 全体で2%削減	・2009年度比 全体で1.6%削減		P34
	廃棄物対策	・工場部門の産業廃棄物 リサイクル率を高いレベルで継続	・工場部門の産業廃棄物 リサイクル率を高いレベルで継続	・産業廃棄物リサイクル率97.0% (全工場トータル)		P35
		・工場部門の産業廃棄物排出量を削減	・工場部門の産業廃棄物排出量を削減	・工場部門の産業廃棄物排出量 2009年度比全体で12.2%増加		P35
	省梱包の推進	・プラスチック系梱包副資材の使用量を削減	・プラスチック系梱包副資材の使用量を削減	・包装・梱包資材の減量化を実施		P35
化学物質対策	・PRTR対象物質の使用量を削減	・PRTR対象物質の使用量を削減	・PRTR対象物質 2009年度比18.3%増加 ※2010年度より対象物質増加による	—	P36	
環境配慮商品の充実・推進	グリーン調達	・グリーン購入の継続(事務用品、作業服など) ・グリーン調達ガイドラインの継続運用	・グリーン購入の継続	・エコ商品購入 事務用品、作業服とも継続実施		P26
	環境配慮商品の開発推進	・環境配慮商品の継続的な開発・発売	・環境配慮商品の売上推進	・環境配慮商品売上比率 83%		P9
	LCAを適用した環境配慮設計の推進 (LCA:ライフサイクルアセスメント)	・全ての新規自社開発商品への環境配慮設計の実施	・環境配慮設計チェックリストの継続実施	・新規開発商品は「環境配慮設計チェックリスト」で100%評価		P9～16
環境リスクへの対応	環境管理、監視体制の強化	・継続的な環境パトロール実施	・工場間および関連会社の環境パトロール継続実施	・全ての工場、関連会社の環境パトロール実施		P38
	産業廃棄物管理の徹底	・継続的な処理業者への視察	・継続的な処理業者への視察	・処理業者への視察実施		P35
環境コミュニケーションの促進	情報開示 (CSR報告書の発行)	・年1回の発行 ホームページで公開	・社会の取り組みを拡大したCSR報告書の発行	・「CSR報告書2011」の発行		—
	生物多様性の保全	・生物多様性の指針策定	・生物多様性の指針策定	・策定検討中		—
	地域社会との共生 関係団体への参画	・関係諸団体への継続的な参画 ・環境保全活動への参画	・関係諸団体への積極的な参加	・関係諸団体への参加		P23～25
	環境教育	・外部環境講習会・セミナーなどへの受講推進	・外部講習会・セミナーなどへの受講推進	・外部講習会・セミナーなどへの受講実施		—
・環境家計簿の参加推進		・環境家計簿の参加推進	・環境家計簿の継続実施		P38	

目標達成 目標未達成

# 地球温暖化対策(省エネルギー対策)(1)

三協・立山ホールディングスグループでは、地球環境問題を人類共通の最重要課題として認識しており、省エネ活動をはじめとする地球温暖化対策に継続的に取り組み、地道な活動を進めています。

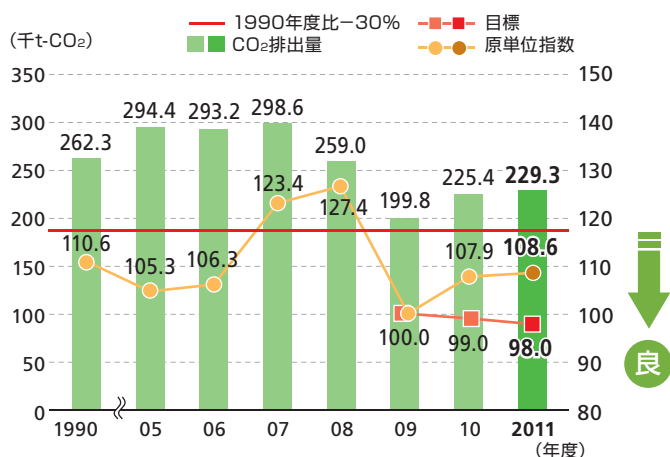
## CO<sub>2</sub>排出量とエネルギー使用量

2011年度のCO<sub>2</sub>排出量の総量は、2009年度比で14.8% (約29.5千t-CO<sub>2</sub>)の増加、1990年度比では12.6%(約33.0千t-CO<sub>2</sub>)の削減となりました。これは、日頃からの地道な省エネ活動などを実施したものの、冬の豪雪の影響により暖房用エネルギーの使用量が増加したことと電力の排出係数が大きくなったことによります。(エネルギー使用量は2009年度

比6.7%増加)

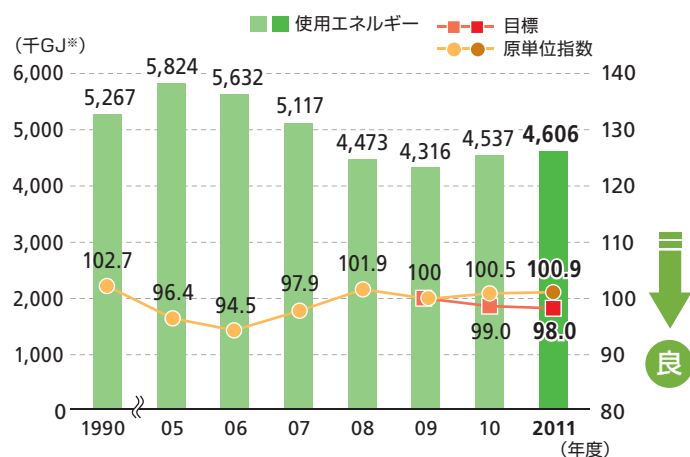
生産量原単位について、生産量は2009年度比5.7%増加したものの、生産量と直接関係のない要因(暖房エネルギー増加と電力排出係数の影響)のため、CO<sub>2</sub>排出量原単位は2009年度比で8.6%、エネルギー使用量原単位は0.9%増加となりました。

### CO<sub>2</sub>排出量と生産量原単位の推移



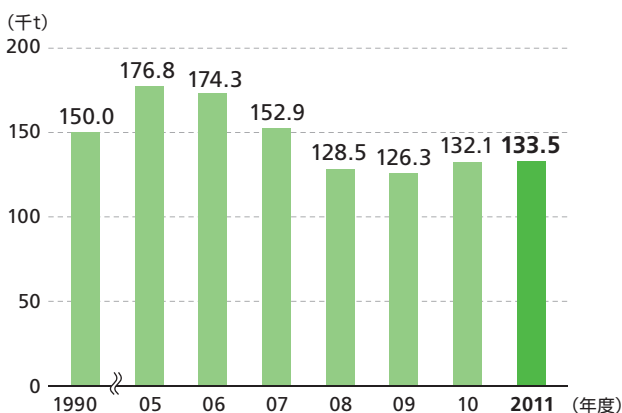
※算出根拠:地球温暖化対策の推進に関する法律に定められる排出係数による。(環境省平成22年3月改正)  
 ※CO<sub>2</sub>発生量の絶対値の正確性を期すため、年度ごとの各電力会社の実排出係数を使用し、過去にさかのぼって変更しています。  
 ※2011年度の電力のCO<sub>2</sub>換算係数は、2010年度の値を使用しています。  
 ※2005年度より横浜工場のデータを含めています。

### エネルギー使用量と生産量原単位の推移



※算出根拠 電力:エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則  
 熱使用:資源エネルギー庁「エネルギー源別発熱量表」  
 ※2005年度より横浜工場のデータを含めています。  
 ※GJ:ギガジュール

### 生産量の推移



### 工場ごとのCO<sub>2</sub>排出量とエネルギー使用量

工場	CO <sub>2</sub> 排出量		エネルギー使用量	
	t-CO <sub>2</sub>	比率	GJ	(原油換算kL)
新湊	10,095	4.4%	210,500	5,431
佐加野	2,035	0.9%	41,092	1,060
福光	3,672	1.6%	72,330	1,866
氷見	1,021	0.4%	19,690	508
福岡	11,349	4.9%	240,374	6,202
福野	2,567	1.1%	49,253	1,271
射水	98,173	42.8%	2,158,624	55,693
高岡	920	0.4%	20,423	527
新湊東	5,208	2.3%	121,631	3,138
石川	21,337	9.3%	454,610	11,729
奈呉	69,119	30.1%	1,131,037	29,181
横浜	727	0.3%	18,641	481
本社	2,634	1.1%	57,948	1,495
本社別館	413	0.2%	9,630	248
合計	229,270	100.0%	4,605,785	118,829



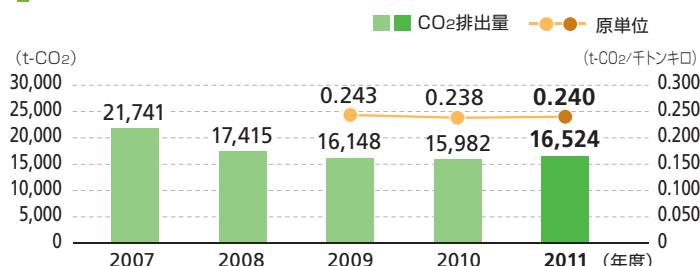
## 地球温暖化対策(省エネルギー対策)(2)

### 輸送部門でのCO<sub>2</sub>排出量

2011年度のCO<sub>2</sub>排出量の輸送量(トンキロ)原単位は、2009年度比1.6%削減となりました。これは、積載効率アップや生産地場輸送の効率化などを図ったためです。

なお、CO<sub>2</sub>排出量は、2009年度比2.3%増(376t-CO<sub>2</sub>増加)となりました。主な原因としては、輸送量(トンキロ)が増加(2009年度比4.0%増)したためです。

### 輸送部門のCO<sub>2</sub>排出量と原単位



### 省エネルギー活動事例

#### ● 事務所でのLED照明導入

照明の省エネルギーとして、工場や事務所へのLED照明導入を進めています。



三協アルミ本社ショールームのLED照明



### 節電

2011年夏、三協立山アルミは全社で15%の使用電力抑制を目標として以下の節電活動に取り組みました。

#### <取り組み期間>

- 2011年7月1日～9月30日(一部の生産拠点は7月末～9月30日)

#### <生産拠点における節電対応策>

- 工場の一部押出・皮膜ライン等における勤務体制を見直し、休業日を現状の土曜・日曜から火曜・水曜にシフト実施
- 工場内照明、空調およびコンプレッサー等関連設備の節電推進

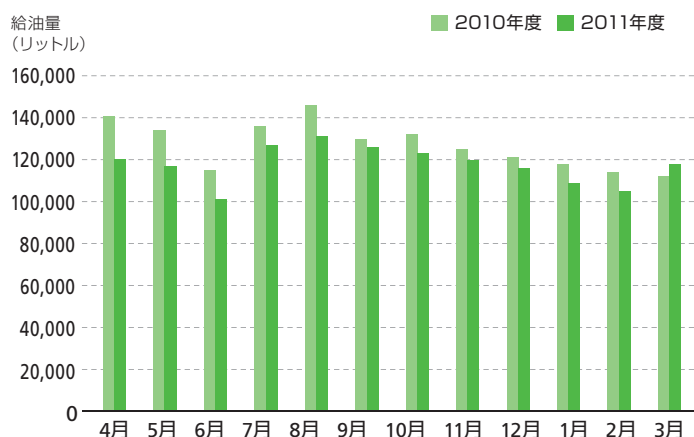
#### <本社・各営業拠点における節電対応策>

- 全社クールビズ活動期間を例年より拡大実施(5月中旬～10月末)
- エアコン使用時の室内温度を29℃に設定
- 照明のLED化推進、蛍光灯本数の30%削減および不使用エリアの消灯を徹底
- 自動販売機の運転時間を短縮
- パソコンのモニター輝度を約60%ダウン

#### ● 営業車のガソリン使用量削減の取り組み

全社有車を対象としたエコドライブコンテストを実施し、燃費向上を競い合いました。また、低燃費車の導入も進めた結果、2011年度のガソリン使用量は前年比7.9%削減しました。

### 営業車のガソリン使用量

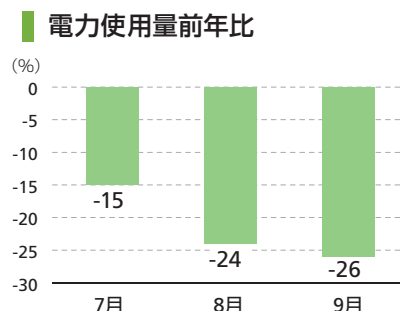


- 離席時のパソコン省電力モード活用推進と帰宅時のパソコン・プリンターの電源OFFの徹底

2012年度は本社・各営業拠点においては節電対応策を継続するとともに、事務所内温度の定期的な測定やデマンド監視装置の活用など、より積極的に節電を推進しています。

### 各営業拠点における、2011年度夏の節電実績(7月～9月)

- ・最大電力(kW):  
2010年度比約20%削減(引き下げ電力236kW)
- ・電力使用量(kWh):  
2010年度比約22%削減



# 廃棄物対策と省梱包

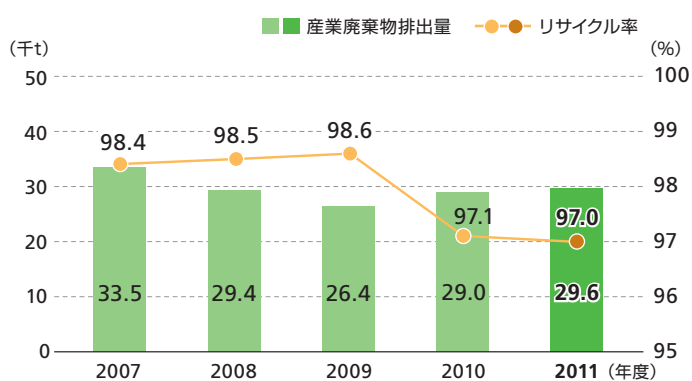
## 廃棄物対策

三協・立山ホールディングスグループでは生産工程から定常的に発生する産業廃棄物の排出量抑制とリサイクル率向上に取り組んでいます。

### ● 産業廃棄物排出実績

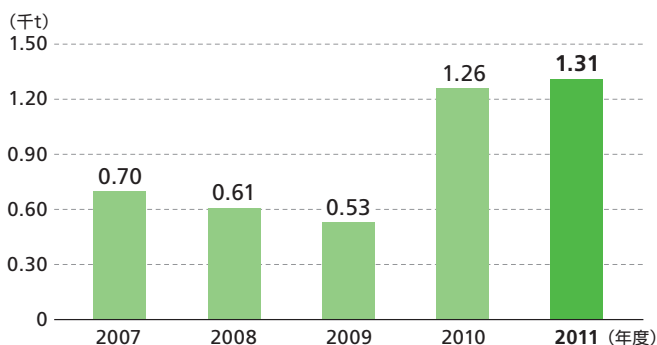
2011年度の産業廃棄物排出量は、前年度比2.2%増加(0.6千t増)となりました。これは生産量が増加したことによるものです。2010年度より鋳造部門を集計範囲に追加した影響により、産業廃棄物の埋立量は1.31千tとなり、リサイクル率は97.0%となりました。

### ■ 産業廃棄物排出量とリサイクル率の推移



※リサイクル率は有価物を含めて計算しています。

### ■ 産業廃棄物埋立量の推移



### ● ゼロエミッション達成状況

2011年度は新湊東と奈呉工場を除く他の工場でゼロエミッション(リサイクル率97%以上)を達成しました。

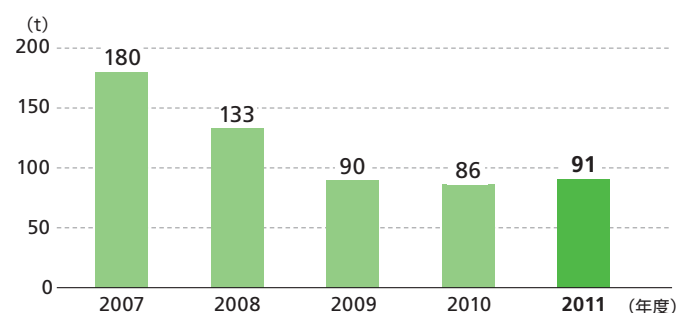
### ■ 工場ごとの産業廃棄物排出量とリサイクル率

工場	産業廃棄物排出量(t)	リサイクル率(%)
佐加野	14	100.0
福光	70	98.8
福野	35	99.8
氷見	21	100.0
新湊	963	99.0
射水	22,838	98.2
高岡	15	100.0
新湊東	21	76.2
奈呉	747	85.0
福岡	2,703	100.0
石川	2,091	98.8
横浜	128	100.0
合計	29,646	97.0

### ● オフィス部門での取り組み

三協・立山ホールディングスと三協立山の本社では、一般廃棄物削減に取り組んでいます。2011年度は事務所人員の増加により前年度比約6%増加しました。

### ■ 一般廃棄物排出量の推移



## 省梱包への取り組み

省梱包への取り組みとして梱包資材の削減、梱包レスの推進、材質転換・統一化の3つの柱を掲げ、活動しています。

### ● 活動事例:半製品の梱包改善

サッシ(出窓)を半製品状態で販売会社へ出荷する際の梱包材を、ダンボールからリユース可能な緩衝材に変更しました。

梱包材の廃棄物を無くすとともに、緩衝材形状を工夫することで製品を積み上げての梱包も可能となっており、輸送時の積載効率にも配慮しています。

これにより年間約216キログラムの廃棄物削減となりました。

改善前



ダンボール梱包

改善後



リユース緩衝材

# 化学物質対策

## 化学物質管理

三協・立山ホールディングスグループでは、PRTR\*法対象物質の管理および排出量の削減に努めています。関連会社も含めた2011年度のPRTR\*法に基づく報告対象物質の取扱量の合計は、787.3トンです。このうち、大気、水域への排出量は、取扱量の39%(309.4トン)に相当し、その内の多く(289.7トン)が大気に排出されています。(公共水域への排出量は19.7トン)  
大気排出量が多い物質は、塗装工程の溶剤であるトルエン、キ

シレン、エチルベンゼンの3物質とラッピング接着工程の溶剤であるジクロロメタンであり、この4物質で大気排出量の84%(244.0トン)を占めています。

以下にPRTR届出義務対象化学物質の排出量、移動量などを示します。

\*PRTR(Pollutant Release and Transfer Register：環境汚染物質排出・移動登録)

### PRTR届出義務対象物質(関連会社含む)

集計期間：2011年4月～2012年3月

集計範囲：12事業所(三協アルミ(5)、三協マテリアル(2)、タテヤマアドバンス、協立アルミ、三協化成、STメタルズ、三精工業)

(単位：t/年 ただし、ダイオキシン類はmg-TEQ)

番号	化学物質名	主な用途	取扱量	排出量			移動量		除去処理量	消費量
				大気	水域	土壌	リサイクル	廃棄物		
31	アンチモンおよびその化合物	難燃剤	2.9	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	2.8
53	エチルベンゼン	製品塗装、車輛燃料	44.4	37.2	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.5
75	カドミウムおよびその化合物	R曲げ処理	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0
80	キシレン	製品塗装、車輛燃料、暖房燃料	102.1	80.3	0.0	0.0	4.0	0.1	0.0	17.7
87	クロムおよび3価クロム化合物	表面処理/電気クロムメッキ	24.7	0.0	0.0	0.0	0.6	1.1	0.0	23.0
88	6価クロム化合物	電気亜鉛メッキ メッキ工程	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0
186	ジクロロメタン	ラッピング接着	68.8	66.5	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0
243	ダイオキシン類	—	—	63.9	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
272	銅水溶性塩	電気銅メッキ	2.2	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	0.0	1.8
277	トリエチルアミン	製品塗装	18.5	18.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	製品塗装、車輛燃料	21.5	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.0
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	製品塗装	2.9	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
300	トルエン	製品塗装、車輛燃料	96.0	60.0	0.0	0.0	32.3	0.1	0.0	3.6
305	鉛化合物	廃プラに含有、アルミビレットの原料に配合	4.4	0.0	0.0	0.0	3.0	1.0	0.0	0.4
308	ニッケル	表面処理	13.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	12.9
309	ニッケル化合物	表面処理	30.6	0.0	3.5	0.0	1.1	1.4	0.0	24.6
355	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	シーリング剤、塩ビの可塑剤	218.2	0.0	0.0	0.0	6.5	0.2	0.0	211.5
374	フッ化水素およびその水溶性塩	アルミビレット鑄造時の溶湯除滓剤	7.9	0.3	3.7	0.0	0.5	2.3	0.0	1.1
392	ノルマルヘキサン	シーリング剤付着ハケの洗浄	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5
405	ホウ素およびその化合物	表面処理	31.5	0.0	12.3	0.0	0.5	1.8	0.0	16.9
412	マンガンおよびその化合物	アルミビレットの原料に配合	42.1	0.0	0.2	0.0	3.7	0.4	0.0	37.8
438	メチルナフタレン	各種炉燃料	31.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	31.0
448	メチルビス(4,1-フェニレン)ジイソシアネート	ラッピング接着、発泡ウレタン	21.8	21.4	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0
合計			787.3	289.7	19.7	0.0	60.2	11.6	0.0	406.1

\*上記集計表には、PRTR届出に必要な取扱量に達していない事業所の実績は含まれていません。

\*リサイクル：対象物質を再生業者に引き渡した量

\*除去処理量：除去処理を目的に対象物質を中和・分解・反応処理などにより他の物質に変化させた量

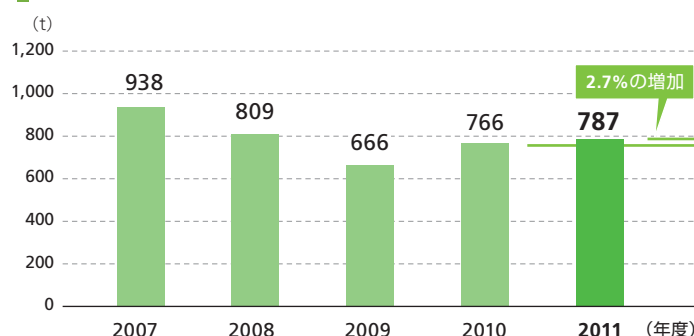
\*消費量：対象物質が反応原料として消費された量、または製品に含有もしくは付着して場外に持ち出される量

## 化学物質使用量

当グループは、「化学物質ガイドライン」を制定し運用しています。「化学物質ガイドライン」運用の目的は、商品に使用する部品・部材などに含有する環境負荷物質について、使用禁止レベル(禁止・削減・管理)を明確にし、環境品質を維持・向上することです。

2011年度の化学物質使用量は、PRTR対象物質において2010年度比2.7%の増加となりました。主な理由は、厚膜仕様の塗装製品が増加したことによってトルエン、キシレンの取扱量が増えたこと、および厳冬によって灯油に含まれるキシレンの取扱量が増えたことによるものです。

### PRTR該当物質使用量





## 法規制遵守

三協・立山ホールディングスグループでは、環境に関する法規制の遵守を基本として、事業活動を進めています。事業活動に係わる法律や各地域における協定などの遵守はもちろんのこと、より厳しい自主基準を設けて管理しています。

## PCB管理

当グループでは、PCBを含む電気工作物、蛍光灯安定器について廃棄物処理法の基準に沿って適正に保管・管理しています。また、高濃度PCB廃棄物(電気工作物)については今までに59台を適正に処理し、残りについても定められた期限までに計画的に処理する予定です。



PCB含有物の保管(佐加野工場)



日本環境安全事業(株)へのPCB含有工作物搬出作業

### PCB管理対象機器台数一覧(2012年5月31日現在)

単位:台

拠点名	高濃度PCB廃棄物 (使用中含む)		微量PCB 混入廃棄物 台数 (分析サンプル除く)	微量PCB 混入使用中 電気工作物 台数	微量PCB 混入の可能 性がある 電気工作物台数
	電気工作物 台数	蛍光灯安定 器台数			
新湊	0	0	1	7	21
佐加野	0	54	0	0	0
福光	35	277	8	0	2
福岡	0	0	9	24	0
氷見	0	0	0	1	0
福野	0	0	3	4	3
福岡西	0	0	0	1	0
射水	32	22	3	11	113
三協立山本社	1	59	7	0	17
三協立山本社別館	0	0	0	0	6
高岡	0	74	3	0	0
高岡西	0	0	1	12	0
石川	0	0	0	0	0
新湊東	0	0	0	0	0
奈呉	0	155	1	0	0
横浜	5	100	0	0	0
協立アルミ	2	0	12	1	0
三協化成	0	0	1	0	0
三協工機	0	0	0	0	0
サンクリエイト	0	0	0	0	0
三精工業	0	0	0	0	14
STメタルズ 海老坂工場 西村ノ木工場	0	0	0	0	0
合計	75	741	49	61	176

※上記集計表には、使用中の蛍光灯安定器でPCB含有の有無が未確認のものについては含まれていません。

## アスベスト対策

射水工場の第3棟に設置してあるアルカリ回収析出槽の保温材は、過去の調査結果よりアスベストを含有していることが判明しています。

この槽のタンク下部鉄板が著しく腐食していたため、今年の2月から3月にかけて補修工事を実施しました。補修工事を実施するには、アスベストを含有している保温材を撤去しなければならず、法令に基づいた適正処理が必要です。このため、①タンク外部のアスベスト除去、②除去後の封じ込め、③取り外した

アスベスト廃棄物の処理について、適正に実施しました。

今後も、法に基づいた適正なアスベスト処理を実施していきます。

### タンクのアスベスト除去工事



工事前

工事中

工事後

## ダイオキシン管理

奈呉工場には、ダイオキシン類特定施設としてアルミ溶解炉とそこから発生するガスを処理する廃ガス洗浄施設がありますが、測定値は基準を大幅に下回っています。

### ダイオキシン濃度測定結果

	特定施設の名称	大気排出測定			水質排出測定		
		排出ガス量 (m <sup>3</sup> N/日)	基準	測定結果	排水量 (m <sup>3</sup> /日)	基準	測定結果
			(ng-TEQ/m <sup>3</sup> N)			(pg-TEQ/L)	
三協マテリアル 奈呉工場	アルミ溶解炉	1,003,200	5	0.2	—	—	—
	廃ガス洗浄施設	—	—	—	5,000	10	0.001

# 環境マネジメントシステム

## ISO14001の認証取得について

三協・立山ホールディングスグループでは、2008年度までに全ての工場および生産系関連会社において、ISO14001を認証取得しました。

環境マネジメントシステムは、構築したシステムを継続的にレベルアップしていくことが重要です。このことが社会的責任を果たすことであると考え、さらに環境マネジメントシステムを充実させていきます。

## 環境啓発

当グループでは、より多くの社員が環境について理解を深め、主体的に取り組むことができるように、「環境家計簿」(2006年度より企画した家庭でのCO<sub>2</sub>削減の取り組み)を継続して実施しています。現在までに延べ580世帯が参加しています。

前年比でCO<sub>2</sub>排出量を大きく削減するなど優秀な実績をあげた参加者には景品を贈呈し、家庭でのCO<sub>2</sub>削減活動の活性化を促進しています。

今後もこれらを継続して実施し、環境に対する意識向上に努めていきます。



環境家計簿2011

## 産業廃棄物処分業者視察

当グループでは、グループ内から排出された産業廃棄物が法令に準拠して適正に処分されているか確認するため、毎年計画的に産業廃棄物処分業者の視察を実施しています。

2011年度は4業者視察しましたが、いずれの業者も適正に処分していることが確認できました。

今後も継続的に視察を実施し、産業廃棄物の適正処分の確認に努めていきます。



視察風景

## 環境事故

2011年度はグループ全体の環境パトロールの実施や緊急事態対応訓練などで環境事故の未然防止と迅速対応に取り組みました。その結果、工場敷地内で取引業者様の車からのオイル漏れ事故が1件発生しましたが、迅速な対応をしたことで工場敷地外への漏れはありませんでした。

## 緊急事態対応(福岡工場の例)

福岡工場では油漏れや火災等の緊急事態が発生した場合、工場外への環境汚染物質漏洩を防ぐための必要な処置や、安全で速やかな避難ができるように、緊急時対応訓練を毎年実施しています。

2011年6月には「危険物安全週間」を踏まえ、福岡消防署の指導の下、地震発生による重油の漏洩、火災発生を想定した「総合防災訓練」を実施しました。事前打ち合わせを行い、指揮命令や各自役割分担を明確にして訓練に臨んだため、適切な処置と、安全で速やかな避難が行えました。

今後も訓練を有効性のあるものとするため、消防署と連携しながら毎年実践していく予定です。



放水訓練



消防署からの訓示

## Column

### 環境パトロール

当グループでは、毎年環境パトロールを実施しています。

- 目的 環境事故の未然防止、法令遵守、環境保全意識の向上
- 対象 全工場および生産系の関連会社
- 実施事項 契約書類、届出書類、環境測定データなどの書類チェックおよび配管、タンク類など該当設備の現場確認
- 不備の改善 不備があった場合は改善を求め、次回実施時に確認

### ●2011年度の実施結果

法令違反はなかったが、廃棄物置き場などの看板表示が見つらいものがあった。

### ●担当事務局の声

毎年実施しているため、年々指摘事項(改善事項)が少なくなってきた。レベルアップしている現われであり、継続の重要性を感じている。



佐加野工場



三精工業

# 環境測定結果(1)

(2011年度実績)

各事業所の大気・水質にかかる法規制の遵守状況を公開します。

## 三協アルミ社

項目	単位	福光工場		氷見工場		福岡工場		福野工場			
		基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績		
排出ガス	ばいじん	ボイラー	g/m <sup>3</sup> N	0.3以下	<0.01	0.03以下	0.02	0.3以下	<0.01	0.15以下	0.02
		乾燥炉	g/m <sup>3</sup> N	—	—	—	—	0.2以下	<0.01	—	—
		加熱炉	g/m <sup>3</sup> N	—	—	—	—	0.2以下	<0.01	—	—
	窒素酸化物	ボイラー	ppm	180以下	130	140以下	110	180以下	83	150以下	100
		乾燥炉	ppm	—	—	—	—	230以下	43	—	—
		加熱炉	ppm	—	—	—	—	180以下	37	—	—
公共用水域	pH	—	5.8~8.6	8.4	5.8~8.6	6.8~7.2	5.8~8.6	7.2~7.4	5.8~8.5	6.7	
	BOD	mg/l	20以下	2.6	30以下	2.7	30以下	19.0	20以下	2.6	
	COD	mg/l	—	—	—	—	160以下	6.5	—	—	
	SS	mg/l	—	—	50以下	5.0	50以下	6.6	10以下	5.0	
	油分	mg/l	—	—	15以下	<1	5以下	<1	15以下	ND <sup>⑤</sup>	
	全窒素	最大	mg/l	—	—	—	120以下	14	—	—	
	全りん	最大	mg/l	—	—	—	16以下	1.8	—	—	

## 三協アルミ社

項目	単位	佐加野工場		新湊工場		射水工場			
		基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績		
排出ガス	SOx濃度	ボイラー	ppm	490以下	31.8	—	—	—	—
	ばいじん	ボイラー	g/m <sup>3</sup> N	0.15以下	<0.01	0.2以下	<0.01	0.1以下	<0.01
		乾燥炉	g/m <sup>3</sup> N	—	—	—	—	0.15以下	0.02
		加熱炉	g/m <sup>3</sup> N	—	—	—	—	0.15以下	0.06
	窒素酸化物	ボイラー	ppm	150以下	120	150以下	76	180以下	85
		乾燥炉	ppm	—	—	—	—	230以下	50
加熱炉		ppm	—	—	—	—	180以下	98	
公共用水域	pH	—	6.5~8.5	5.7~8.3 <sup>⑥</sup>	6.0~8.5	6.6~8.1	6.0~8.5	6.0~8.3	
	BOD	mg/l	20以下	19.0	—	—	20以下	8.8	
	COD	mg/l	—	—	20以下	6.4	20以下	3.0	
	SS	mg/l	30以下	25.0	50以下	<2.0	50以下	9	
	油分	mg/l	3以下	<0.5	3以下	<0.5	2以下	<1	
	ハウ素	mg/l	—	—	10以下	0.9	10以下	6.1	
	クロム	mg/l	—	—	2以下	<0.2	—	—	
	六価クロム	mg/l	—	—	0.5以下	<0.02	—	—	
	フッ素	mg/l	—	—	15以下	<0.8	8以下	<0.2	
	全窒素	最大	mg/l	60以下	29	60以下	4.4	—	—
	全りん	最大	mg/l	8以下	1.9	8以下	0.54	—	—

①基準値は、国・県・市町村で定めた値と同等か、もしくはより厳しい値に設定しています。

②—の項目は基準値がないか対象施設のない項目です。

③略称で表記した項目の内容は次のとおりです。SOx:硫黄酸化物濃度、NOx:窒素酸化物濃度、pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、COD:化学的酸素要求量、SS:水中懸濁物質濃度

④「&lt;」は数値が表示データ未満であることを示します。

⑤「ND」は対象物が不検出(Not Detected)であることを示します。

⑥佐加野工場のpH基準値外は、酸性雨による一時的なものです。その後の測定結果では基準値内となっています。



## 環境測定結果(2)

(2011年度実績)

## 三協マテリアル社

## タテヤマアドバンス社

項目	単位	石川工場		高岡工場		新湊東		奈呉工場		横浜工場		
		基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績	
SOx濃度	ボイラー	K値	8.00以下	0.15	—	—	—	—	—	—	—	—
	乾燥炉	K値	8.00以下	0.01	—	—	—	—	—	—	—	—
	加熱炉	K値	8.00以下	0.01	—	—	—	—	—	—	—	—
	溶解炉	m <sup>3</sup> N/Hr	—	—	—	—	—	—	4.56	0.44	—	—
ばいじん	ボイラー	g/m <sup>3</sup> N	0.3以下	<0.01	—	—	—	—	—	—	—	—
	乾燥炉	g/m <sup>3</sup> N	0.2以下	<0.02	—	—	—	—	—	—	—	—
	加熱炉	g/m <sup>3</sup> N	0.2以下	0.02	—	—	0.2以下	0.05	0.15以下	0.01	—	—
	溶解炉	g/m <sup>3</sup> N	—	—	—	—	—	—	0.15以下	0.15	—	—
窒素酸化物	ボイラー	ppm	180以下	130	—	—	—	—	—	—	—	—
	乾燥炉	ppm	230以下	34	—	—	—	—	—	—	—	—
	加熱炉	ppm	180以下	110	—	—	180以下	17	120以下	81	—	—
	溶解炉	ppm	—	—	—	—	—	—	150以下	138	—	—
ダイオキシン	溶解炉	ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	—	—	—	—	—	—	5以下	0.2	—	—
公共用水域	pH	—	5.8~8.6	6.7~7.2	5.8~8.6	6.7~8.2	5.8~8.6	7.3~7.9	5.5~8.5	7.5~7.9	5.0~9.0	5.7~7.6
	BOD	mg/l	30以下	16.0	25以下	15.0	—	—	—	—	—	—
	COD	mg/l	—	—	—	—	—	—	20以下	3.8	—	—
	SS	mg/l	30以下	6.0	100以下	9.0	—	—	50以下	6	—	—
	油分	mg/l	5以下	<1.0	5以下	<0.5	5以下	<0.5	3以下	0.6	—	—
	クロム	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	2以下	0.34
	六価クロム	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	0.5以下	0.26
	溶解性鉄	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	3以下	0.07
	ホウ素	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	10以下	3.0
	フッ素	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	8以下	1.2
	銅	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	1以下	0.2
	ニッケル	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	1以下	0.5
	ダイオキシン	pg-TEQ/L	—	—	—	—	—	—	10以下	0.001	—	—

## 関連会社

項目	単位	協立アルミ		三協化成		STメタルズ西本木工場		三精工業 本社工場		三精工業 有磯工場	
		基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績
pH	—	5.8~8.6	6.8~7.5	5.8~8.6	6.3~8.1	5.8~8.6	7.5~7.8	6.0~8.0	6.8~7.5	6.0~8.0	6.7~7.5
BOD	mg/l	20以下	<1	10以下	1.6	—	—	—	—	—	—
COD	mg/l	—	—	—	—	30以下	5.5	20以下	12	20以下	9.4
SS	mg/l	70以下	2	10以下	<3	70以下	10	20以下	7	20以下	2
油分	mg/l	5以下	1	3以下	<0.5	3以下	<1	3以下	2.1	3以下	0.6
クロム	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	0.3以下	0.09
六価クロム	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	0.15以下	0.05
亜鉛	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	3以下	0.62
溶解性鉄	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	5以下	1.2
シアン	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	0.25以下	0.1以下

# 環境会計

三協・立山ホールディングスグループでは、環境省発行の環境会計ガイドラインに基づき環境保全に係わる費用と効果を量的に把握して環境投資と効果を評価しています。

## 2011年度環境会計結果

### 環境保全コスト

単位:千円

環境保全コストの分類	コスト項目の主な内容	設備投資		費用	
		2010年度	2011年度	2010年度	2011年度
1. 事業エリア内コスト	事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト	50,933	38,722	533,055	507,535
内訳	1) 公害防止コスト	48,320	650	204,891	165,845
	2) 地球環境保全コスト	2,613	37,572	1,368	4,650
	3) 資源循環コスト	0	500	326,796	337,040
2. 上・下流コスト	グリーン購入など事業エリアの上流側で発生する環境負荷抑制のために必要なコスト	0	0	2,644	2,493
3. 管理活動コスト	環境マネジメントシステムの運用のためなどに必要なコスト	0	0	84,361	98,868
4. 研究開発コスト	環境負荷抑制に係わる製品の研究開発に必要なコスト	404,872	217,716	323,331	234,157
5. 社会活動コスト	地域住民の行う環境活動などへの寄付、支援のためのコスト	0	0	2,770	3,030
6. 環境損傷コスト	自然修復のために必要なコスト	0	0	8,615	0
合計		455,805	256,438	954,776	846,083

### 環境保全効果(CO<sub>2</sub>換算)

効果の内容	2010年度		2011年度	
	環境負荷削減量 (t-CO <sub>2</sub> )	前年度比削減率 (%)	環境負荷増加量 (t-CO <sub>2</sub> )	前年度比増加率 (%)
二酸化炭素	25,669	12.8	3,825	1.7

### 環境保全対策に伴う経済効果

単位:千円

効果の内容	2009年度	2010年度	2011年度
1. 省エネによるコスト削減	44,717	28,548	56,958
2. 有価物売却益	169,556	154,581	165,371
3. ダンボール、緩衝材などの削減	26,514	7,783	9,673
合計	240,787	190,912	232,002

### 環境負荷総量内訳

単位:t-CO<sub>2</sub>

	2009年度	2010年度	2011年度
電気	107,193	125,588	126,804
重油	47,908	52,117	53,612
軽油	1,750	1,889	1,974
灯油	17,361	18,271	18,605
ガソリン	80	60	68
LPG	2,227	2,509	2,622
都市ガス	23,259	25,013	25,587
環境負荷総量	199,778	225,447	229,272

### 環境会計要約情報の直近3年間の推移表

	2009年度	2010年度	2011年度
1. 環境保全コスト			
投資額(千円)	236,641	455,805	256,438
費用額(千円)	812,014	954,776	846,083
2. 環境保全効果に関する環境パフォーマンス指標			
総エネルギー投入量(千GJ)	4,316	4,537	4,606
水資源投入量(万t)	984	993	1,048
CO <sub>2</sub> 排出量(万t-CO <sub>2</sub> )	20.0	22.5	22.9
産業廃棄物排出量(万t)	2.6	2.9	3.0
総排水量(万t)	984	993	1,048
3. 環境保全対策に伴う経済効果			
実質的效果(千円)	240,787	190,912	232,002

### 2011年度環境会計の分析

2011年度の環境保全コストとして、設備投資に2億56百万円、費用に8億46百万円を投入しました。設備投資の主なものとして環境配慮商品を開発するための設備投資に2億18百万円、費用の主なものとして廃棄物処理等に3億37百万円投入しました。

設備投資は2010年度に比べて2億円減少、費用は1億09百万円減少しました。

環境保全効果(CO<sub>2</sub>換算)の増加量は約4千t-CO<sub>2</sub>で増加率は1.7%でした。

環境保全対策に伴う経済効果は2億32百万円で2010年度比21.5%増加しました。

●集計期間…2011年6月1日～2012年5月31日

●集計範囲…1. 環境保全コスト、環境保全対策に伴う経済効果は三協立山アルミ、三協マテリアル、タテヤマアドバンス  
2. 環境保全効果、環境負荷総量内訳は、三協立山アルミ、三協マテリアル、タテヤマアドバンス(ただし、産業廃棄物は三協立山アルミ本社を除く)

# 主要指標一覧(環境報告ガイドライン2007年版準拠)

## [2011年度]主要な環境パフォーマンス指標などの推移

項目	報告対象期間	2009年4月 ~2010年3月	2010年4月 ~2011年3月	2011年4月 ~2012年3月	集計範囲	本報告の 掲載頁
総エネルギー投入量	(千GJ)	4,316	4,537	4,606	グループ会社	P33
主要原料投入量	(千トン)	153	162	159	グループ会社	P31
水資源投入量	(千トン)	9,840	9,930	10,480	グループ会社	P31
温室効果ガス排出量	(千トン-CO <sub>2</sub> )	200	225	229	グループ会社	P33
産業廃棄物排出量	(千トン)	26.4	29.0	29.6	グループ会社	P35
産業廃棄物埋立量	(千トン)	0.5	1.3	1.3	グループ会社	P35
PRTR対象物質取扱量	(トン)	666	767	787	グループ会社、関連会社	P36
化学物質トルエンの排出量	(トン)	44	43	60	グループ会社、関連会社	P36
化学物質キシレンの排出量	(トン)	61	54	80	グループ会社、関連会社	P36
総資産	(百万円)	218,482	212,172	212,862	グループ会社	P2
売上高	(百万円)	257,402	260,978	272,554	グループ会社	P2

※温室効果ガス排出量:年度ごとの各電力会社の実排出係数にて算出

### 環境に関する特記事項

- ・全社共通の取り組みとしてコンプレッサーの省エネ対策実施
- ・LED照明などの高効率ランプや高効率機器への更新
- ・エアコン運転台数の抑制と室内温度管理の徹底
- ・リユース緩衝材によるダンボール梱包材の削減

### 環境に関する規制遵守の状況

- 規制当局から指導、勧告、命令、処分を伴う環境関連法規制などの違反はありませんでした。
- 全国19ヵ所の工場を対象に環境監査を実施した結果、環境関連法規制などに違反するものではありませんでした。

### 報告対象組織・期間・分野

#### (1) 報告対象組織

グループ会社：三協・立山ホールディングス、三協立山[旧三協立山アルミ、三協マテリアル、タテヤマアドバンス]  
 関連会社：ST物流サービス、協立アルミ、三協化成、三協工機、サンクリエイト、三精工業、STメタルズ[旧タテヤマメタックス]

#### (2) 報告対象期間、発行日および前回・次回発行日

報告対象期間：2011年4月1日から2012年3月31日  
 (一部2011年6月1日から2012年5月31日)  
 発行月：2012年8月  
 前回発行月：2011年8月 次回発行月：2013年8月

#### (3) 報告対象分野

環境的側面、社会的側面

#### (4) 作成部署および連絡先

作成部署：三協・立山ホールディングス 内部統制室  
 CSR・コンプライアンス推進グループ  
 連絡先：電話 0766-20-2550  
 FAX 0766-20-2082

#### (5) WebサイトのURL

三協・立山ホールディングス  
<http://www.sthdg.co.jp/>



# 環境保全活動の歩みとグループのこの1年

## 〈環境保全活動の歩み〉

- 1967年 ● 公害対策基本法制定
- 1971年 ● 本社技術部に公害防止対策部署を設置  
[三協アルミ] (以降 各工場に環境保全課を設置)
- 1993年 ● 環境基本法制定  
● ボランティアプラン策定[三協アルミ]  
(環境理念・環境スローガンの制定)
- 1996年 ● 特定フロン全廃完了
- 1998年 ● 福光、福野工場の表面処理設備廃止
- 1999年 ● 立山合金 石川工場(現 石川工場)、本社工場  
(現 高岡西工場) ISO14001認証取得  
● 全社の環境方針制定[三協アルミ]  
(課題別委員会の設置、活動開始)
- 2000年 ● 循環型社会形成推進基本法の制定  
● 新湊工場、氷見工場 ISO14001認証取得  
● 佐加野工場の表面処理設備廃止  
● 本社生産本部に環境対策部を設置[立山アルミ]
- 2001年 ● 環境報告書の発行[三協アルミ]  
● グループ全社でトリクロロエチレンの使用を全廃  
● 福野工場、佐加野工場 ISO14001認証取得  
● 富山軽金属(現 射水工場) ISO14001認証取得  
● 富山合金(現 奈呉工場) ISO14001認証取得  
● 社内向け「環境宣言」発表[立山アルミ]  
(テーマ別委員会の設置、活動開始)
- 2002年 ● 行動指針の社員カード発行[三協アルミ]  
● 高岡工場 ISO14001認証取得
- 2003年 ● 「環境への取り組み」をホームページに掲載[立山アルミ]  
● 福光工場、福岡工場 ISO14001認証取得
- 2004年 ● 福岡西工場、茨城工場 ISO14001認証取得  
● 三協化成 ISO14001認証取得
- 2005年 ● 新湊マテリアル工場(現 射水工場)、新湊工場  
都市ガス(天然ガス)の導入
- 2006年 ● 三精工業、タテヤマメタックス、三協工機、  
サンクリエイト、協立アルミ ISO14001認証取得
- 2007年 ● 横浜工場 ISO14001認証取得
- 2008年 ● 「チーム・マイナス6%」参加  
● 横浜工場 ISO14001を拡大取得
- 2009年 ● 高岡西工場 休止
- 2010年 ● 富山合金 三協マテリアルに統合(現 奈呉工場)
- 2011年 ● タテヤマアドバンス横浜工場メッキ事業廃止

## 〈グループのこの1年〉

### 2011年

- 4月 ● 三協立山アルミ 台湾での販売会社「三協大同アルミ」設立  
● 三協マテリアル マグネシウム合金鍛造向け小径連続鋳造ビレットの製造技術確立  
● 三協・立山HDグループ 東日本大震災復興支援 野球BCリーグ公式試合主催
- 5月 ● 三協・立山HD「クールビズ」期間を延長し5/16より実施  
● 三協立山アルミ 東日本大震災における被災者支援活動に対し経済産業省より感謝状受賞  
● 三協立山アルミ オリックス(株)と提携しマンション管理組合へ共用部分の設備リース取組を開始
- 6月 ● 竹平榮次名誉顧問(立山アルミニウム工業創業者)逝去
- 7月 ● 三協立山アルミ キッズデザイン賞受賞  
ユニバーサルセーフティ部門  
・集合住宅向けアルミ手すり「ティアライン」  
・室内引戸用「直張り敷居ルール」  
● 三協・立山HD 第8期(2011年5月期)決算発表、長期VISION-2020を発表  
● 三協・立山HDグループ 富山県より『男女共同参画推進事業所』として認定
- 8月 ● 三協・立山HD 第8回定時株主総会  
● 三協・立山HDグループ「ポリゴニウム」(アルミ形材製ディスプレイシステム)を「金屋町楽市と隈研吾展」に提供
- 9月 ● 三協立山アルミ 建材系生産子会社を合併し、「STメタルズ(株)」を設立  
● 三協立山アルミ『完全人工光(LED)型植物設備』の試験運用を開始
- 10月 ● 三協立山アルミ グッドデザイン賞受賞  
・住宅冷暖房設備放射パネル「サーモマイルド」  
● 三協立山アルミ HEADベストセレクション賞受賞  
・ビル用高性能省エネサッシシステム「ARM-S」  
● 三協立山アルミ パナソニック電工と省エネルギー型建材の共同開発契約締結を発表
- 11月 ● 三協立山アルミ 富山県発明とくふう展日本弁理士会会長奨励賞受賞  
・太陽光発電一体型カーポート「ソーラスター」

### 2012年

- 3月 ● 三協・立山HD あしなが育英会の東日本大震災・津波遺児募金を通じて支援金を贈呈  
● 三協マテリアル 急速充電器設備・電気自動車を導入
- 5月 ● 三協・立山HDグループ 本社敷地内に「太陽光発電システム」を導入
- 6月 ● 三協立山株式会社発足

※三協・立山HD:三協・立山ホールディングス

### 三協・立山ホールディングスグループの「CSR報告書2012」を読んで



神戸大学大学院経営学研究科  
教授 國部克彦

#### 長期VISION-2020の意義

2012年の報告書の特徴は、三協・立山ホールディングスグループの「長期VISION-2020」が示されたことです。このビジョンは、2020年までに挑戦する目標として設定されたもので、非常に重要な戦略的な指針です。そこでは、「環境技術でひらく、豊かな暮らし」がキャッチフレーズとして掲げられ、環境技術を軸として企業成長を目指す姿勢が明確に示されています。

環境はこれからの世界経済や市民生活においてますます重視される側面ですので、それを機軸とすることには大きな合理性があります。環境を中心に事業を再編して、高成長を達成している企業は数多くありますので、三協・立山ホールディングスグループも、是非ともこの戦略を成功させていただきたいと思います。

#### 環境・社会マネジメントの再編成を

環境技術を成長戦略に据えて、2020年までの長期ビジョンを構想されているので、それに見合った環境・社会マネジメント体制を構築していただきたいと考えます。三協・立山ホールディングスグループが環境技術を中心にビジネスを展開するためには、自社自身の環境マネジメント、社会マネジメントの体制を再考する必要があると思います。これは、率先垂範としての意味だけではなく、社員の環境意識を高め、社内の結集力を強めるためにも必要で、環境技術のイノベーションを生み出す企業風土を形成すると考えるからです。

#### 統合レポートへ向けた取り組みを

三協・立山ホールディングスグループの報告書は、現在は環境や社会に関するCSR報告書ですが、将来的には、財務情報も含む統合レポートへと発展させる方向性を検討されてもよいのではないのでしょうか。長期VISIONで環境技術を軸に成長を目指されているわけですから、報告書も、環境、社会、経済の3つの側面を取り入れることをお勧めします。このような方向は、ヨーロッパでは統合レポートとして普及し始めていますので、検討に値すると思います。そのためには、企業としての環境、社会、経済に関するKPI(Key Performance Indicator)を定めて、全社的な取り組みとして進めることが重要になります。



**Sankyo-Tateyama  
Holdings Group**

**三協・立山ホールディングス株式会社**

内部統制室 CSR・コンプライアンス推進グループ  
〒933-8610 富山県高岡市早川70番地  
電話 0766-20-2550 FAX 0766-20-2082  
ホームページアドレス <http://www.sthdg.co.jp/>